

華の章



登頂 — 青き嶺へ —



山の日帽

「山の日」の想いを次期開催地へ

■何を引き継いでいくか

「山の日」の全国大会を継続的に開催していくことを期待し、実行委員会において、次期開催地へと引き継いでいく物品を検討しました。物品の選定にあたっては、

- ① 国内外共通で、山と関連した物品の一つとして想起しやすいもの
- ② 各地をリレーしていく上で簡易なものであること
- ③ 日常的に使用することが可能で、国民への広がりや汎用性に富むもの

などの観点から帽子を採用しました。検討段階では、大会旗やピッケルをデザインしたものなども考えられました。

「山の日」を象徴する物として、帽子は、登山や山仕事等に不可欠な物であり、特に、登山用の帽子の開発の歴史は古く、健康的に登山を行う上での重要な物です。

なお、植物の「ヤマボウシ」(山法師、山帽子)の花言葉は「友情」であり、記念式典で着用するコサージュのモチーフとしたニリンソウと同じで、今大会のテーマである、「山と共に～人と自然がつながる社会へ～」を象徴するものとしても意義深いと考えています。

■帽子をつくる

今後、全国各地を巡っていくことから、山の日の主務官庁である環境省につくっていただくことにしました。

その意匠は「山」をイメージできる素材や形、色の工夫をするようにし、帽子としても使えるものにしました。

その製造は、長野市にある「アトリエ・アニェリカ」に依頼しました。店主の黒岩裕美子さんは、善光寺近くの工房でハンドメイドの帽子やヘッドアクセサリを手掛けており、既製品では叶えられない要望を見事に形にしてくれました。

全体のフェルトは深遠なる森を表し、縁取りに木の葉を大胆にあしらうことで、より「山」のイメージを強調しています。白い羽のような飾りは、風や雲、霧、鳥のはばたきを感じさせ、華やかさを演出しています。頂頭部が「山」型になっているところも工夫されています。



■「山の日帽」と名付ける

7月14～15日に松本市で開催した第1回「山の日」記念全国大会実行委員会第3回総会で帽子を引き継いでいくことが承認され、その名称を「山の日帽」とすることが決まりました。また、山の日帽は環境省が所有し、その管理を(一財)全国山の日協議会が受け持つこととなりました。大会期間中は各会場に飾られ、山の日誕生をみんなで祝い、今大会の想いを乗せて次期開催地へと引き継ぎました。



ニリンソウコサージュ 山と人の友情を結ぶ



ニリンソウは上高地を代表する山野草のひとつです。「友情」という花言葉や、二輪の花が寄り添って咲く姿に「山と人」が親しむ様子を思い浮かべ、記念式典会場の皆様にニリンソウをモチーフとしたコサージュをご着装いただきたいと考えました。繊細なニリンソウを再現できる素材を探中、長野県飯田地方の伝統工芸である「飯田水引」に注目しました。「百花が水に引かれて流れていく」という水引の語源の一説に、山から始まる清い川の流れを連想し、友情を表す「ニリンソウ」と、山とつながりのある「水引」の結びとで“山と人の友情を結ぶ”ことを表現したいと考え、飯田水引協同組合に製作のご協力をお願いしました。

■「飯田水引」による再現

ニリンソウの多様な花の色を表現するため、使用する水引の色合いにこだわって何度も試作を繰り返し、白色と緑色、濃淡それぞれの桃色の計4種類を用意しました。特徴的な葉の姿を表現するためふさわしい種類の結びを選び、またスラリと伸びる茎を再現するにあたっては、湿気や風、花の重みに耐えられることなどを考慮して長さやバランスを調整し、ようやくデザインの全てが決まった頃には大会まで約1か月半となっていました。さらに、コサージュ中央の亚克力製ロゴマークプレート（製作協力：株式会社タイヨー）と水引との接着は非常に難しい工程の1つでした。通常の接着剤を使用し、異なる性質の物どうしを接着したところポロポロと取れてしまったため、開催日が迫る中、より適した接着剤に切り替えて直前まで作業をしていただきました。



■会場に咲くニリンソウ

こうして一点一点手作業で丁寧に作られた特別なコサージュは、繊細で優しい風合いのニリンソウと、カラフルで明るいイメージのロゴマークが上手く調和しています。大会当日には皇太子同妃両殿下並びに愛子内親王殿下をはじめとし、記念式典にご参加いただいた約400人の胸元に可憐なニリンソウが咲き誇り、会場が一体となりました。



オープニングセレモニー(松本城)

2日間の大会の幕開けを告げるオープニングセレモニーを、松本城公園特設ステージで開催しました。司会進行は、野村恵美さんが務めました。

オープニングセレモニーは、アルプホルンの響きで幕を開け、その後、実行委員会会長である菅谷昭松本市長が「長野県松本市の山の魅力や価値を広く国内外に発信するとともに、参加される皆様と共に、山の恩恵に感謝する日としてまいります。さらには、次代を担う子供たちに、美しく豊かな山の未来を創造し、確実に託していくため、この山の日をみんなで「山」について考える日にしていきたいと考えております。」と、松本城公園に集まった大勢の人々に向け、大会の理念を伝えました。

続いて、国の機関を代表し環境省の小林正明環境事務次官よりご挨拶をいただいた後、実行委員会へ「山の日帽」の戴冠式が行われました。「山の日帽」は、山の日を象徴するものとして制作し、今後、山の日の全国大会を開催する全国各地へリレーされていきます。

続いて、山の日制定を記念した特殊切手を日本郵便株式会社の川野陽一信越支社長から、また山の日硬貨セットを独立行政法人造幣局の百嶋計理事長から、それぞれ菅谷昭実行委員会会長に贈呈されました。

また、オープニングセレモニーには、2016年度ミス日本みどりの女神の飯塚帆南さんが参加され、ステージは華やかな雰囲気になりました。

■日時及び場所

日時：平成28年8月10日(水)午前10時から午前10時40分まで

場所：松本城公園特設ステージ



歓迎レセプション

山の日制定を共に祝い上高地記念式典への招待者の懇親を深めるため、歓迎レセプションを開催し、山岳県信州・岳都松本ならではの「山の恵み」を振る舞い、山の歴史と文化を実感していただける演出を行いました。

■日時及び場所

日時：平成28年8月10日(水)
午後3時30分から午後4時30分
場所：ホテルブエナビスタ3階グランデ

■参加人数

皇太子殿下、環境大臣、県議会議長、
市議会議長、山の日制定功労者、
地元(地域)関係者、
実行委員会構成員等 130名



■プログラム

時間	内容	備考
14:00	招待者受付	1階フロントで受付後、控室のご案内
14:20	レセプション会場開場 招待者入場	
15:00	招待者入場完了 招待者へのプログラム説明	司会進行：本間香菜子(フリーアナウンサー) 記録(静止画)：山田毅写真事務所 記録(動画)：(株)テレビ松本ケーブルビジョン
歓迎レセプション		
15:30	皇太子殿下御入場	ヴィオラ・ダ・ガンバの生演奏：品川聖 御先導：実行委員会会長 菅谷昭 御出迎え：環境大臣 山本公一
15:31	開宴の言葉	実行委員会顧問：衛藤征士郎
15:32	主催者あいさつ	実行委員会会長：菅谷昭
15:35	乾杯	実行委員会名誉会長：阿部守一
15:36	御歓談	皇太子殿下に各テーブルを順次お回りいただきながら御歓談 ヴィオラ・ダ・ガンバの生演奏：品川聖
16:00	皇太子殿下御退出	ヴィオラ・ダ・ガンバの生演奏(以降、閉宴まで)：品川聖 御先導：実行委員会会長 菅谷昭 お見送り：環境大臣 山本公一
16:29	閉宴の言葉	長野県議会議長：向山公人
16:30	閉宴・招待者退場	

(敬称略)

■歓迎のあいさつ

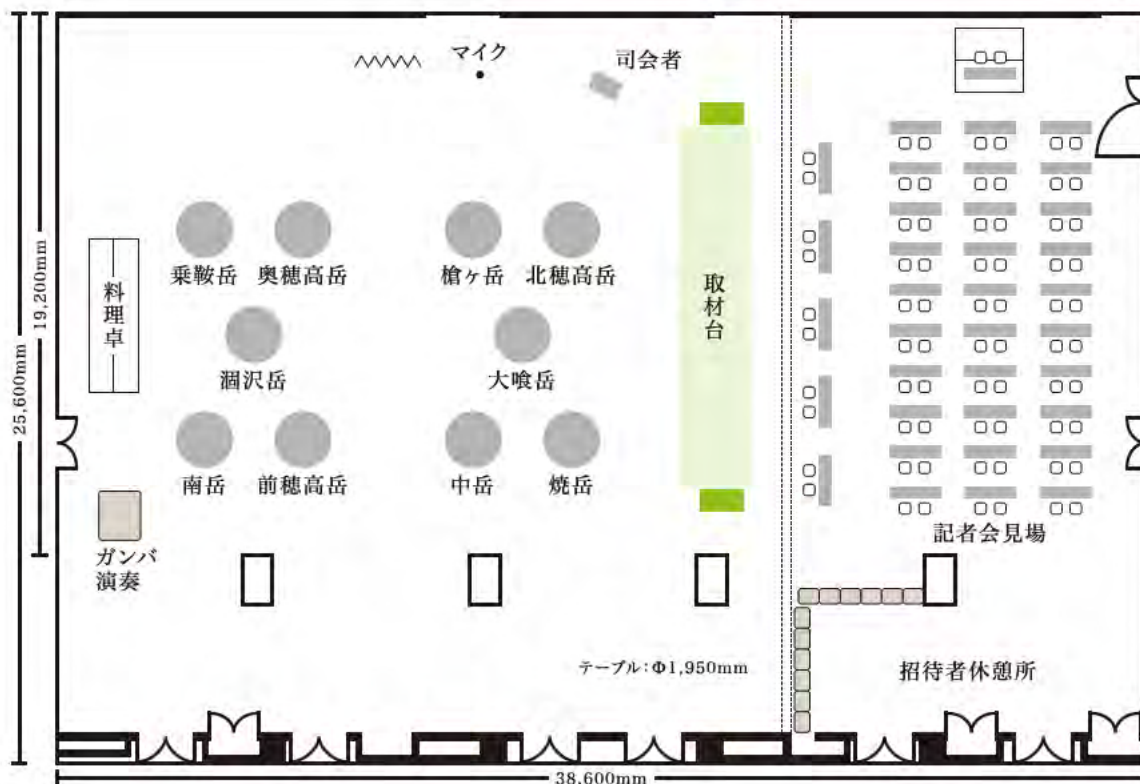
第1回「山の日」記念全国大会実行委員会会長 菅谷昭(松本市長)

皆様、ようこそ「山の国」信州、岳都「松本」へお越しくださいました。皇太子殿下におかれましては、山の日誕生を記念する第1回の全国大会にご臨席を賜りますことにより感謝申し上げます。本日は、山の日誕生を共にお祝いし、記念式典にお招きした皆様の懇親を深める場として、ささやかではありますが、ご宴席を設けさせていただきました。山岳県信州・岳都松本ならではの「山の恵み」をふんだんに取り入れたお飲物やお食事をご用意いたしましたので、時間の許す限りお楽しみいただき、山の歴史や文化の薫りに触れていただければ深甚でございます。結びに、ホテルブエナビスタの重山総支配人様をはじめ関係者の皆様には、とても細やかな質の高い準備をしていただきましたことに重ねてお礼申し上げ、ご臨席いただきました皆様には、どうか夏の夕餉(ゆうげ)をごゆっくりお楽しみいただきますよう祈念申し上げ、ご挨拶いたします。

■ご招待者

	お名前	所属等		お名前	所属等
奥穂高岳	皇太子殿下		大喰岳	佐藤 浩市	㈱テレビ松本ケーブルビジョン代表取締役社長
	阿部 守一	長野県知事		鈴木 啓助	大会宣言起草委員 信州大学理学部教授
	磯野 剛太	(一財)全国山の日協議会代表理事理事長		八田 誠	金沢市経済局長
	犬飼 信雄	松本市議会議長		福島 眞	のりくら観光協会会長
	衛藤 征士郎	超党派「山の日」議員連盟会長(衆議院議員)		森 博幸	鹿児島市長
	太田 寛	長野県副知事		山口 孝	北アルプス南部地区山岳遭難防止対策協会救助隊長
	小林 正明	環境省事務次官		今井 敏	林野庁長官
	菅谷 昭	松本市長		織田 央	林野庁森林整備部長
	坪田 明男	松本市副市長		加藤 庸之	観光庁観光地域振興部長
	中島 恵理	長野県副知事		神山 修	文部科学省大臣官房審議官
	松沢 哲郎	(一財)全国山の日協議会副会長(京都大学高等研究院特別教授)		亀澤 玲治	環境省自然環境局長
	向山 公人	長野県議会議長		木村 徹也	スポーツ庁審議官
山本 公一	環境大臣	杉本 達治	消防庁国民保護・防災部長		
槍ヶ岳	Imogen Evans	在日オーストラリア大使館	高橋 佑輝	外務省地域連携推進室外務事務官	
	Herbert Pichler	オーストリア大使館	中山 隆治	環境省長野自然環境事務所長	
	Karlheinz Moser	オーストリア大使館	西山 幸治	国土交通省砂防部長	
	範 建民	中華人民共和国駐日本国大使館	野村 朋美	警察庁生活安全局地域課理事官	
	呼 海波	中華人民共和国駐日本国大使館	藤田 和也	環境省上高地自然保護官事務所自然保護官	
	徐 君波	中華人民共和国駐日本国大使館	神崎 忠男	日本ヒマラヤン・アドベンチャートラスト会長	
	Mario Krebs	ドイツ連邦共和国大使館	大久保 春美	(一財)全国山の日協議会理事(日本山岳会副会長)	
	Florian Jäger	ドイツ連邦共和国大使館	尾形 好雄	(一財)全国山の日協議会専務理事(日本山岳会副会長)	
	Giovanni Scopa	イタリア大使館	尾上 昇	(一財)全国山の日協議会評議員	
	Krishna Chandra Aryal	在日本ネパール国大使館	小日向 義夫	松本市アルプス観光協会会長	
	Greg Mulheirn	駐日英国大使館	梶 正彦	(一財)全国山の日協議会評議員	
	乗鞍岳	龍野 裕香	駐日英国大使館	前穂高岳	小林 政志
Aron F. Gold		米国大使館	田川 和夫		上高地町会副町会長
Peter Egger		グリーンデルワルト観光局	成川 隆顕		大会宣言起草委員(公社)日本山岳会「山の日」事業委員会委員
Bruno Hauswirth		グリーンデルワルト観光局	賛田 統亜		学習院・日本山岳会
井出 庸生		超党派「山の日」議員連盟(衆議院議員)	西本 武志		日本勤労者山岳連盟会長
木内 均		超党派「山の日」議員連盟(衆議院議員)	水嶋 一雄		(一財)全国山の日協議会理事(日本大学教授)
後藤 茂之		超党派「山の日」議員連盟(衆議院議員)	八木原 啓明		日本山岳協会 会長
小松 裕		超党派「山の日」議員連盟(衆議院議員)	山田 直		北アルプス山小屋友交会会長
杉尾 秀哉		超党派「山の日」議員連盟(参議院議員)	大瀬 高央		上高地町会総務部長
鈴木 克昌		超党派「山の日」議員連盟(衆議院議員)	神谷 圭子		北アルプス山小屋友交会
武田 良介		超党派「山の日」議員連盟(参議院議員)	川久保 文良		松本市議会経済地域委員会副委員長
橋本 岳		超党派「山の日」議員連盟(衆議院議員)	清沢 英男		長野県議会農政林務委員長
羽田 雄一郎	超党派「山の日」議員連盟(参議院議員)	小林 あや	松本市議会経済地域委員長		
宮下 一郎	超党派「山の日」議員連盟(衆議院議員)	小山 義秀	北アルプス山小屋友交会(山の日担当)		
務台 俊介	超党派「山の日」議員連盟(衆議院議員)	南岳	近藤 晴彦	松本市議会副議長	
北穂高岳	赤司 龍之祐	松本市観光大使(RKB毎日放送(株)プロデューサー)	下澤 順一郎	長野県議会副議長	
	井上 保	松本商工会議所会頭	手塚 友恵	(一財)全国山の日協議会理事(事務局長)	
	今井 通子	(一財)全国山の日協議会評議員	藤澤 高徳	上高地観光旅館組合副組合長	
	岡村 美紀	学校法人 明和学園指導主事	穂苅 康治	北アルプス山小屋友交会元会長	
	岡村 倫子	学校法人 明和学園理事長	村上 文俊	北アルプス山小屋友交会副会長	
	小野 圭介	ONO BRAND DESIGN代表	毛利 栄子	長野県議会環境産業観光委員長	
	金山 洋太郎	㈱finetrack代表取締役	赤羽 郁夫	松本市教育長	
	神田 文之	松本市観光大使(松本山雅FC代表取締役社長)	五十嵐 祥二	国土交通省北陸地方整備局松本砂防事務所長	
	久保 秀人	松本市観光大使(フジドリームエアラインズ専務取締役)	池田 秀幸	長野県林務部長	
	小林 綾子	女優	江坂 文寿	林野庁中部森林管理局計画保全部長	
	角田 謙之	松本市観光大使(経営コンサルタント)	大金 重秀	栃木県環境森林部環境森林政策課課長補佐	
	辰野 勇	㈱モンベル代表取締役会長兼CEO	奥原 宰	上高地観光旅館組合長	
潤沢岳	手島 泰六	手島泰六後援会	中岳	加藤 銀次郎	松本市商工観光部部長山の日記念大会推進室長
	中條 功	長野銀行取締役頭取		上條 敏昭	上高地町会長
	奥原 仁作	(一財)自然公園財団上高地支部所長		川上 正彦	松本市商工観光部長
	小野 秀樹	藤沢市副市長		高橋 博幸	環境省松本自然環境事務所長
	川崎 深雪	(株)山と溪谷社代表取締役社長		田邊 仁	環境省国立公園利用推進室長
	北川 俊文	姫路市市長公室長		新島 俊哉	林野庁中部森林管理局長
	國島 芳明	高山市長		三好 大輔	栃木県環境森林部環境森林政策課主任
	小坂 壮太郎	信濃毎日新聞社㈱代表取締役社長		吉野 謙章	環境省大臣秘書官

各テーブル毎五十音順、大使館については国名のアルファベット順、敬称略



■ご歓談

皇太子殿下に奥穂高岳、槍ヶ岳、北穂高岳…の順に各テーブルをお回りいただき、招待者の皆さまと山に関するお話して懇親を深めていただきました。

■しつらえ

1 信州ならではの山の恵みを提供

【乾杯酒】

JA松本ハイランド提供のすいかと県内ワイナリー製造のナイヤガラスパークリングワインを使い、旬のすいかのフレッシュな香りとスパークリングワインの弾ける口当たりを楽しんでいただける、信州のさわやかな夏をイメージした「すいかのカクテル」を提供しました。

【食 事】

地元野菜のサラダやシカ肉の煮込みなどの地域で採れた食材を使った料理のほか、信州蕎麦や信州サーモンなどの信州ならではの食材、山ぶどう葉寿司や番所きゅうりの漬物などの地域の伝統食を提供しました。

【飲み物】

地ビール(松本ブルワリー5種類)、ワイン(城戸ワイナリー、安曇野池田ヴィンヤード、ファンキー・シャトーなど13種類)、日本酒(長野県酒造組合提供49銘柄)など県内や地元で生産・製造された飲み物をお楽しみいただきました。

山の恵み① 乗鞍の「山ぶどう葉寿司」

乗鞍は山深く、昔は新鮮な食材が手に入りませんでした。そのため、塩で締めた鱒を使い神様のお祭りのご馳走として山ぶどうの葉に包んだお寿司を作りお祝いをしていました。食材が自由に手に入る今でも、7月～8月の山ぶどうの葉が茂る頃、乗鞍を訪れるお客様におもてなしの料理の一つとして振る舞われており、地域の神社の定例祭にも欠かせない食べものとなっています。素朴で昔の人の知恵が詰まった郷土食として、中山間地域の乗鞍の貴重な食文化を伝えています。



山ぶどう葉寿司と番所きゅうりの漬物(提供 乗鞍うまいもの工房)

Menu

【洋食】

地物野菜のカラフルサラダ(卓上)/鴨とモッツアレラとトマトのマリネ/蒸し鶏のバリバリサラダ仕立て/ハヤシソースドリア/
福味鶏のプレス夏野菜トマト煮/信州ポーク パラ肉のハニーマスタードドラケ/信州ポーク ロース低温ロティ
シカ肉ロースのハーブコンフィ/フルーツ盛り合わせ/プチケーキ/デミコーヒー

【和食】

塩丸烏賊と信州夏野菜の和え物(卓上)/信州福味鶏照り焼き 信州サーモン黄味酒盗焼き(卓上)/信州サーモン・活鰯
・信州産信濃鱒・信州産大岩魚・黄肌鮪・甘海老・烏賊焼き霜造り/豚柳川風(卓上)/信州蕎麦 信州きのこ天婦羅
鹿モモ肉煮込み

【特別メニュー】

山ぶどう葉寿司(卓上+説明パネル)/番所きゅうりの漬物(卓上)

Drink

【ビール】

松本ブルワリー「Traditional Bitter/Smart Wheat/Awesome Pale Ale/Pure Blonde Ale/Castle Stout」
(卓上+説明パネル)

【ワイン】

城戸ワイナリー「プロジェクトK」「プライベートリザーヴビノ・グリ2013」「プライベートリザーヴシャルドネ2013」「プライベートリザーヴメルロー2014」「プライベートリザーヴリースリング2014」「カベルネフラン」「オータムカラーメルロー」

安曇野池田ヴィンヤード「メタリージュ」

ファンキー・シャトー「サンズフルGrisGris/StrateCasse 2014」

アルプスMDV「マエストロ桔梗ヶ原シラー'15」

アルプス「信州ブラッククイーン&メルロー」

イツツNAC「メルロー」

あづみアップル「ソーヴィニヨンブラン」

【日本酒】

大雪溪 純米大吟醸原酒(卓上)/若緑 生貯蔵酒/純米吟醸 松尾 荒瀬原/純米吟醸 松翠/特別純米 棚田/積善 ひまわり

溪流 夏吟/スクエア・ワン/浅間嶽 純米吟醸/寒竹 吟醸/純米吟醸 深山桜/牧水 生酛純米/清酒 大吉野 蓼科山

茜さす 特別純米酒/澤の花ひまり 辛口純米/初鶯 凍米純米酒/樽酒 本醸造/純米酒 生酛造り①/純米酒 郷の舞

和田龍 純米酒/吟醸 梁山泊/純米吟醸 信州舞姫 美山錦/純米吟醸 真澄 辛口生一本/高天 純米吟醸

神渡 純米吟醸/御湖鶴 純米吟醸 くら/夜明け前 純米吟醸 生一本/井の頭 純米吟醸/信濃錦 純米大吟醸 千畳敷

黒松仙醸 辛口純米/今錦 純米吟醸/喜久水 純米 風越/木曾路 特別純米酒/七笑 木曾の米から造った純米酒

中乗さん 特別純米酒/特別純米酒 木曾のかけはし/大信州 N.A.Cひとごち/辛口生貯蔵 岩波

秀峰アルプス正宗 純米酒/山清 純米吟醸/笑亀 特別純米酒/幻の酒 特別吟醸

金欄黒部 黒部の氷筍水仕込み 純米吟醸/雪嶺 白馬錦/北安大団 純米吟醸原酒/北アルプス 純米酒

水尾 特別純米酒 金紋錦仕込/北光 純米吟醸/一滴二滴 雪中貯蔵酒 龍興寺名水仕込

(49銘柄)

2 ヴィオラ・ダ・ガンバの生演奏

皇太子殿下のご入場とご退場の際及び参列者同士の歓談時に、プロ奏者の品川聖さんによるヴィオラ・ダ・ガンバのソロ演奏を披露いただきました。ガンバは16世紀から18世紀にヨーロッパの宮廷で愛好された歴史の古い擦弦楽器(さつげんがっき)で、山の日の誕生前夜に山の話で楽しむ会場に華やかで優しい雰囲気をもたらすことができました。



3 装飾

歓迎レセプション会場内の受付表示や卓上サイン、食材の説明パネル、ランチョンマット等は「ツキ板」を素材とし、食材等とあわせて山の恵みでおもてなしをするという統一したテーマを持たせました。ツキ板の美しい木目や自然の温もりを感じる質感、樹木の薫りを楽しんでいただきました。

山の恵み② ツキ板

ツキ板はスギやヒノキ、ナラ、ケヤキなどの木を薄くスライスした板材で、その樹木固有の木目や質感を生かして、壁や床、家具・建具などの表面材として使われます。今回使用したツキ板は、本大会協賛企業の全国天然木化粧合単板工業協同組合連合会から提供いただいたもので、山の恵みを象徴する素材の一つでもあり、歓迎レセプションの会場のほか、式典出席者やスタッフのIDカードや大会記念品のお品書き、大会に貢献いただいた方への感謝状など、今大会の随所で活用しました。



■よそおい

皇太子殿下をはじめ、招待者の皆さまには平服(上着着用、ノーネクタイ)でご参加いただきました。また、スタッフは、会場内では平服で、会場外のフロア等ではファイントラック社提供の公式スタッフウェアを着用し対応をしました。



歓迎レセプションの四方山話

みんなが待ち望んだ「山の日」の誕生日前夜。そのちょっとワクワクするようなひとときをお預かりする歓迎レセプションでは、「山の恵み」の匂いのする会場ですべての皆さまに、たくさんの方とお話ししながら山談義で盛り上げていただきたい、そんな気持ちで会場の設えを検討しました。そんな想いから採用したツキ板は、手に取るとそれぞれの木の個性ある匂いや手触り、模様(木目)が楽しくて、山の日を目前にあわただしく準備を進める私たちも、ツキ板を使って小物などの制作をするときだけは、束の間の安らぎを感じたことを覚えています。会場の皆さまの中には、ツキ板でできた小物を手に取ってくださった方もいて、とても嬉しかったです。さて、そんなレセプション会場の設えで一番巨大なモノ。それは、幅14.7m奥行2.7m高さ1.7mの特設報道台でした。報道の方が50人乗っても十分に安全な強度と会場の雰囲気を損なわない設え、コスト的な問題などいくつかの課題に直面しましたが、会場のホテルプエナビスタの皆さまにも知恵をいただき、その設えが完成しました。





本間 香菜子

歓迎レセプション・信州四方山祭りin上高地司会
フリーアナウンサー

今年8月11日、盛大に迎えた国民の祝日「山の日」において、私は記念全国大会の「歓迎レセプション」および「信州四方山祭りin上高地」の司会という、大変光栄な機会を頂戴致しました。皇太子殿下もご臨席され華やかに催されたレセプションでは、ご列席の皆さまが楽しそうに山談義に興じていらっしゃる様子が、特に微笑ましく印象に残っています。

また翌日の四方山祭りでは、音楽やトークショーといった会場の皆さまとの一体感のあるプログラムを、山の日を祝福するかのような晴天の上高地で行うことができました。山に魅せられ信州に移住をしてきた私は、山の日を心から堪能する皆さまに、同じ山好きとして親近感を感じ、あの場にいられたことへの幸福感を今でも鮮明に記憶しています。

山という、何にも代えがたい貴重な財産。「山の日」を通じて、今後ますます多くの方が山をより愛し大切にすることを、山を愛する者の一人として願っております。





品川 聖

歓迎レセプション・信州四方山祭りin上高地出演
ヴィオラ・ダ・ガンバ奏者

山と音楽 ～山が私を育ててくれた～

今夏、松本・上高地で開催された第1回「山の日」記念全国大会において、ヴィオラ・ダ・ガンバ(以下ガンバ)のソロ演奏の機会をいただき、大変光栄に存じます。

私の名前は「聖(ひじり)」といいます。由来は南アルプスの聖岳から名付けられたとのこと。山好きの両親のもと、幼少の頃から山に連れられ、自然の中に身を置くことが大好きになりました。初山行は生後10か月、背負われて徳本峠だったとのこと。自分の中で、山との記憶がどこから始まったのか定かではありませんが、写真や話を通じて覚えていることがたくさんあります。

母に言わせると、「ともかく辛抱強く黙々とよく歩く子」ということでした。子ども心に状況を把握し、歩くしかないと感じていたのかもかもしれません。3歳の頃、11月中旬に鳥々谷を登った時のこと。夕暮れ時に徳本峠小屋のランプが微かに見えて、「あー、もう歩かなくていいんだ」と思ったこと。これが私と山との出会いの原点です。その徳本峠小屋では、2010年から毎夏演奏させていただいており、ご縁を感じます。上高地西糸屋山荘でも同じく2010年から毎年新緑の美しい6月に演奏させていただいております。私にとって毎年の楽しみとなっています。

山が大好きな私が、「山の日」という国民の祝日の誕生を祝う一大行事に、演奏家として関わることができ、心からうれしく思うと同時に、運命的なものを感じています。

私は8月10日に松本で開催された歓迎レセプションと、翌11日に上高地小梨平で開催された記念行事において、ガンバのソロ演奏をさせていただきました。

10日の歓迎レセプションは、皇太子殿下ご臨席のもと、国賓や山に関わる重鎮の方々の前での光栄なる演奏の機会。ガンバは、ヨーロッパの宮廷(特にヴェルサイユ宮殿)で好まれた弦楽器であり、ご臨席いただいた方々にガンバの魅力を最大限にお伝えできるように演奏しました。皇太子殿下のご入場・ご退場の際に演奏させていただく重要な役割もいただき、ガンバのオリジナル曲で、品よく歩きやすい選曲をしました。

翌11日、故郷に帰ってきたかのような上高地で、幸い天候にも恵まれ、雄大な穂高連峰と梓川をバックに、本当に気持ちよく演奏させていただきました。青空の下、梓川のせせらぎ、鳥のさえずり、雲の流れを感じながらの演奏は、格別心に残るものでした。ご来場いただいた山を愛する多くの方々に、ガンバの音色を十分に届けることができたと感じます。ドイツ在住の作曲家・江村玲子さんに、「山の日」のために委嘱した「上高地への憧憬」も初演しました。曲調は夏というより晩秋の静けさ漂う上高地、まさに神河内をイメージした感じの曲です。

この曲は、9月25日あづみ野コンサートホールで、「山の日」関連行事として開催したソロ・コンサートでも演奏しました。

今回の一大行事に演奏したカタロニア民謡「鳥の歌」も収録したCD『人間の声』を今年中にリリースして、生涯忘れることのないであろう「山の日」を私なりに締めくくりたいと思います。

演奏家として存在している私の原点は「山」。目に見えないところでどれだけ自然の恩恵を享受していることでしょうか。何事も諦めず継続し、日々の努力を積み重ね、集中力を研ぎ澄ませ、心身共々健康でいること。私の中では、「山と音楽」がとても良い形で繋がっているような気がします。山との出会い、人との出会い、山の恵みに感謝して、私の大好きな上高地がいつまでも美しく後世に引き継がれていくことを願っています。「山の日」制定を機に、さらに真剣に山と向き合ってみたいと思うと同時に、より多くの人が山の素晴らしさを感じる日になっていったらうれしいです。

記念式典 山に親しむ機会を得る

「山の日」の制定趣旨の一つ「山に親しむ機会を得る」ことを具現化する上高地の屋外特設会場での開催により、「山」の魅力・価値を国内外に向けて発信するとともに、先人が育んできた歴史と文化を次代に継承する内容のプログラムにより、厳粛かつ品格のある式典として実施しました。

■日時及び場所

日時：平成28年8月11日(木)午前9時から午前10時45分まで
場所：上高地バスターミナル駐車場特設会場

■参加人数(約400名)

皇太子同妃両殿下並びに愛子内親王殿下、各国大使館関係者、国会議員、姉妹都市、行政機関、山の日制定功労者、地元(地域)関係者等

■山行きの服装とニリンソウをかたどった飯田水引によるコサージュの着装

記念式典に御臨席いただいた皇太子同妃両殿下並びに愛子内親王殿下をはじめとする来賓、実行委員会構成員、スタッフ等の参加者全てが「山行き」の服装に身を包み、式典会場全体が一体感を持つ工夫をしています。

また、上高地の代表的な植物の一つである「ニリンソウ」をかたどったコサージュを着装し、会場いっぱいにニリンソウが咲き誇る様子を演出しました。あわせて、公式ガイドブックを来場者の皆様におくばりました。



山と共に 結びつきの証「ニリンソウ」

お手元のコサージュは上高地を代表する花「ニリンソウ」を信州の伝統工芸「飯田水引」で再現しています。
可憐な2つの花が優しく寄り添うように
私たちは山と共に生きています。
「水引」の持つテーマ「結ぶ」。
「ニリンソウ」の花言葉「友情」。
会場いっぱいに咲く「ニリンソウ」を山との結びつきの証とし
山の日のお祝いしたいと思います。



■プログラム (司会(影アナウンス):浜中弘樹さん)

登壇者登壇～紹介	
招待者紹介・入場(ようこそ山の国へ)	
プロローグ (15分)	山鐘(8山鐘)
	さあ「山」へいこう(映像上映)
	はじめまして「山の日」(映像上映)
式典行事 (50分)	「山の日」はじめのことば 山本公一 環境大臣
	国歌斉唱
	「山の日」誕生あいさつ 衛藤征士郎 顧問
	主催者あいさつ 菅谷昭 会長
	歓迎あいさつ 阿部守一 名誉会長
	皇太子殿下 おことば
	「山の日」制定記念音楽演奏 セイジ・オザワ松本フェスティバル プラスアンサンブル
	伝えたい「山への想い」 C.W.ニコルさん、油井亀美也さん、小澤征爾さん
	内閣総理大臣メッセージ
	「山と共に」未来への誓い 安曇・奈川・大野川小中学校代表児童・生徒
	「山の日」結びのことば 松沢哲郎副会長
エピローグ (10分)	山への第一歩(音楽演奏)

1 登壇者登壇～紹介

ステージ上には、今大会の主催者である「第1回「山の日」記念全国大会実行委員会」を構成する機関の代表者が登壇し、式典に御参列された皆様に紹介をさせていただきました。



2 招待者紹介・入場(ようこそ山の国へ)

各国大使館や海外姉妹都市からお越しいただいた皆様をご紹介しながらエスコートキッズ(開催地である上高地の麓の安曇・奈川・大野川小学校の児童の皆さん)の先導でご登場いただきました。前日に開催しました「山の日」制定記念国際フォーラムと合わせて、世界でも類を見ない「山を祝う」日をアピールし、その趣旨を世界に発信し共に分かち合う良い機会となりました。



【在日オーストラリア大使館】イモジン・エバンス様
 【オーストリア大使館】ヘルベルト・ビッヒラー様
 【中華人民共和国駐日本国大使館】範 健民様
 【ドイツ連邦共和国大使館】マリオ・クレープス様
 【ドイツ連邦共和国大使館】フローリアン・イエガー様
 【イタリア大使館】ジョバンニ・スコパ様

【在日本ネパール国大使館】クリシュナ・チャンドラ・アリヤル様
 【在日スイス大使館】カロリーヌ・パウマン様
 【駐日英国大使館】グレッグ・マルハーン様
 【米国大使館】アロン・ゴールド様
 【グリンデルワルト観光局】ペーター・エッガー様
 【グリンデルワルト観光局】ブルーノ・ハウスヴィルト様

3 プロローグ

(1) 式典開幕「山鐘(さんしょう)(8山鐘)」

式典の開幕を告げる「山鐘」では、坪田副会長(松本市副市長)と児童代表の小澤周平さん(大野川小学校6年生)が交互に4回ずつの計8回、鐘を撞くタイミングに合わせて、鐘の音に込められた思いが会場のスクリーンに映し出され、上高地の稜線まで鐘の音が響き渡り、辺りは一瞬の静寂に包まれました。



(2) 「さあ山へいこう」映像上映

松本市安曇のHAPPYDAYZ PRODUCTIONSに制作していただきました。11分間の作品で、「山の四季」「上高地の歴史」「山へ」の3パートに分かれています。

「山の四季」

開催地である松本市の山、上高地が玄関口の北アルプスなど、長野県の山々を中心に美しい四季の姿を伝えます。



「上高地の歴史」

かつて牧場や樽木(屋根葺き用の木材)を切り出す場として栄えた上高地の姿、近代登山の発祥、焼岳噴火と大正池の形成、筑摩鉄道(現松本電鉄上高地線)、環境保護や登山道整備、学校登山など、忘れてはならない日本の山での出来事、その“ほんの一部”を紹介する歴史パートです。



「山へ」

この作品のタイトル「さあ山へいこう」を表現するパート。入念な登山準備(もう心は半分山へ行っ
てしまっています)、苦しくも清々しい山道、山頂から望む美しい風景・・・

山には、きっとワクワクする体験と感動の瞬間が待っています!



(3) 「はじめまして「山の日」」映像上映

「山の日」の制定経過を振り返ることで、式典行事へ臨む意識を高めました。



4 式典行事

(1) あいさつ

山本公一環境大臣による「山の日が国民の祝日として制定された意義を感じ、全ての国民が山に思いを寄せるきっかけになることを願う」趣旨の「山の日」はじめの言葉」によって式典行事の始まりが告げられました。

続いて、国民の祝日「山の日」の誕生を祝い、セイジ・オザワ松本フェスティバル プラスアンサンブルの伴奏に合わせて、式典参加者全員で国歌を斉唱しました。

衛藤征士郎実行委員会顧問からは「山の日は美しく豊かな自然を守り、次の世代に引き継ぐことを銘記する日であり、今こそ私たちは山への思いを一つにして、新たな時代へと踏み出す時を迎えている」旨の「山の日誕生あいさつ」がありました。

菅谷昭実行委員会会長からは「山の日を山に謙虚に向き合い、山に向かって一步を踏み出す日としていただき、質の高い山岳高原観光都市・「岳都」の形成に努める」旨の「主催者あいさつ」がありました。

阿部守一実行委員会名誉会長からは「全ての山々は国民の貴重な財産であり、全国有数の山岳を抱える長野県も世界中の人々から愛される山岳県となるよう取り組んでいく」旨の「歓迎あいさつ」がありました。



(2) 皇太子殿下 おことば

皇太子同妃両殿下と愛子内親王殿下の皇太子御一家が御臨席になり、皇太子殿下よりおことばを賜りました。

第1回「山の日」記念全国大会の記念式典に、皆さんと共に出席できることを大変うれしく思います。

「山の日」は、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」ことを趣旨に、平成26年に国民の祝日として制定されました。制定に尽力された多くの皆様に心から敬意を表します。

また、記念すべき第1回の全国大会が、山岳観光地として名高いここ長野県松本市上高地で開催されることは、山の日制定の趣旨を表現するにふさわしく大変意義深いことと思います。

私も、昭和42年に両親とともにこの地を訪れ、穂高連峰の雄大な景色に魅了され、そこから流れ出る梓川の清流に心癒されたことがなつかしく思い出されます。

我が国は国土の約7割を山地が占めており、私たち日本人は古くから山に畏敬の念を抱き、森林の恵みに感謝し、自然と共に生きてきました。

また、長野県では登山学習というすばらしい取組が脈々と受け継がれており、この大会のロゴマークも地元の子どもたちが制作にかかわったと聞きました。次代を担う子供たちに、山の素晴らしさや厳しさ、山の恩恵への感謝の気持ちなどをしっかりと引き継いでいくことが大切であり、「山の日」が明るく豊かな「山の未来」を創造する第一歩となることを願っております。

私自身、山に登り始めて50年程になりますが、山に登るたびに新しい発見や新たに学ぶことがあり、山の魅力は尽きることはありません。

このように山の日が誕生したことを機に、ここ上高地から山の恩恵を広く国内外に発信し、多くの人が山に親しみ山の恩恵に感謝するとともに、美しく豊かな自然を守り次の世代に引き継いでいくことを心より願い、あいさついたします。



(3)「山の日」制定記念音楽演奏

セイジ・オザワ松本フェスティバル プラスアンサンプル」による、「山の日」制定を記念する演奏です。「山の日」の誕生を祝うに相応しく、朝の上高地に響き渡る爽やかで軽快な音色でした。

曲目	デュカス
	「ラ・ベリ」ファンファーレ
	ヘンデル
	「王宮の花火の音楽」より「序曲」「歓喜」



(4)伝えたい「山への想い」

[山と生きる] C. W. ニコル さん
作家、環境保全活動家、探検家

母国英国の山を引き合いに、生い茂り多くの水を湛える森とそこに生きる生物など日本の山の豊かさを説き、“日本の人々が日本を「山の国」として心に留めて、山の日をきっかけにもっと山のことを皆で考えよう”と呼びかけられました。



[山を望む] 油井 亀美也 さん
宇宙飛行士

小さな頃に遊び学んだ長野県川上村の山を“とても大きな存在”、宇宙飛行士として宇宙から望んだ山は“美しく壊れやすい存在”であると感じ、将来にわたり自然を守ることの大切さをメッセージとして寄せられました。



[山を奏でる] 小澤 征爾 さん
指揮者

恩師である斉藤秀雄さんと仲間たちとの山での思い出や、30年前から続けている奥志賀高原での子供たちとの音楽活動に触れ、山の日が山に親しみ山を楽しむ日になってほしいとメッセージを寄せられました。



(5)内閣総理大臣メッセージ

サプライズで安倍晋三内閣総理大臣からいただいたメッセージが読み上げました。

きれいな水、澄んだ空気、美しい緑。山は、多くの恵みを私たちに与えてくれます。そして、時に山は、自然の厳しさも教えてくれます。故郷の山への愛着と畏敬の念を抱きながら、古来、私たち日本人は、山とともに暮らしてきました。

山はまた、近代スポーツである登山や気軽に自然を満喫できるハイキングの場としても、観光で訪れる方々を感嘆させる景勝地としても、多くの国民に親しまれてきました。国内だけではなく、近年、日本の山に魅せられて、我が国を訪れる海外の方も増えています。

「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」。国民の祝日「山の日」は、国民の皆さんにとって、山との関わり合いの中で築いてこられた日々の暮らしや地域の文化・伝統の大切さに改めて思いを致し、山との触れ合いをさらに深め、その未来を共に語り合う日となることでしょう。

「山の日」制定に尽力された皆様に心から敬意を表するとともに、政府としても、国内外に日本の山の多様な魅力を発信し、先人から受け継いできた国民全体の財産として、次世代にしっかりと引き継いでいく決意です。

平成28年8月11日
内閣総理大臣 安倍晋三

(6)「山と共に」未来への誓い

大会宣言の朗読が行われました。宣言は「序文」、「山と人のつながりの証 ニリンソウ～花言葉「友情」～」、「宣言」の3パートに分かれ、「序文」を衛藤征士郎実行委員会顧問、「山と人の繋がり」の証 ニリンソウ～花言葉「友情」～」と「宣言」を開催地上高地の地元である安曇・奈川・大野川小中学校の代表児童・生徒の皆さんに朗読・宣誓をしていただきました。衛藤顧問の力強い序文朗読の後、子供たちの息の合った声によって高らかに宣言されました。

序文。

「山の日」は世界でも珍しい、国土としての「山」を対象とする祝日です。その「山の日」を、本日初めて迎えました。山に囲まれた地に暮らす私たちが、山を愛する心を同じくする皆様を日本全国、世界からお迎えできたこと、そしてすぐ目の前にある山の恵みを改めて見つめる機会を得られたことをとても幸せに思います。私たちは、「山への親しみと感謝を表す日をつくりたい」と強く願い、これを実現させた皆様と一緒に「山の日」の誕生をお祝いし、この思いを広く日本中、そして世界中へと届けたいと願います。

この国に暮らす私たちの文化や生活は、常に山とそれを取り巻く豊かな自然と共にありました。ここ上高地も、時代とともにその姿や役割を変えながら、私たちに様々な恵みをもたらしてきました。皆様が胸に携える花の名前をご存じでしょうか。この花は上高地を代表する花である“ニリンソウ”といえます。ニリンソウの花言葉は「友情」。二つの花が寄り添うその姿を「人と山」の友情に重ね、私たち一人ひとりが山との関わりを深め、山と共に生きていく思いの証とします。

宣言!山と共に 未来への誓い

山は僕たち私たちの宝物。みんなここで生き、生かされています。きれいな山、自然や文化を守るために、山への恩返しとして、自分たちができることから始めましょう!人と山の未来はどうなるのでしょうか?「山の日」をきっかけにどうすれば山と人がよりよい友だちになれるか、考えましょう!僕たち私たちは、子供、お年寄り、体の不自由な人、海外からのお客様もみんな憩い、親しみ、楽しめる山、健やかで豊かな暮らしの源である山を未来へつないでいきます!



(7)「山の日」結びの言葉

松沢哲郎実行委員会副会長より、「山の日が深く人々に浸透し、自然を愛し山に親しむ心が次の世代に引き継がれることを祈念する」旨のあいさつとともに、記念式典の閉会が告げられました。



5 エピローグ・終演

【山への第一歩】

セイジ・オザワ松本フェスティバル プラスアンサンブルによる「山に親しむ・山への第一歩」を表現する演奏と、「ニリンソウ」が山への想いとともにつなげていくことを願う映像で式典は終了しました。

曲目

ドヴォルザーク
「家路」交響曲第9番「新世界より」
第2楽章
ロジャース
「サウンド・オブ・ミュージック」より
テーマ、ひとりぼっちの羊飼いの歌、
エーデルワイス、ドレミの歌

招待者(各国大使館・海外姉妹都市関係者)

- 在日オーストラリア大使館 イモジン・エバンス様 ○オーストリア大使館 ヘルベルト・ビツヒラー様
○中華人民共和国駐日本国大使館 範 建民様、呼 海波様 ○ドイツ連邦共和国大使館 マリオ・クレーブス様、フローリアン・イェーガー様
○イタリア大使館 ジョバンニ・スコッパ様 ○在日本ネパール国大使館 クリシュナ・チャンドラ・アリヤル様、ガンガ・アリヤル様
○在日スイス大使館 カロリーヌ・パウマン様 ○駐日英国大使館 グレグ・マルハーン様
○米国大使館 アロン・ゴールド様 ○グリーンデルワルト観光局 ベーター・エッガー様、ブルーノ・ハウスヴィルト様

招待者(50音順、敬称略)

青木 正篤、赤司 龍之祐、赤羽 都夫、赤堀 聡之、赤廣 三郎、朝比奈 耕太、阿部 宏美、荒金 普一、有井 寿美男、有村 隆生、安藤 龍司、五十嵐 祥二、池上 安雄、池田 秀幸、池田 悠記、石井 杉男、石川 貴大、板橋 健児、市川 貴大、井出 泰生、井出 庸生、伊藤 亜美、伊藤 和久、伊藤 直樹、伊藤 勇三、犬飼 信雄、吉野 謙章、井上 保、伊原 広隆、今井 克明、今井 匠、今井 通子、今田 明子、岩原 裕右、上 幸雄、上 素子、牛越 徹、内川 博文、浦谷 公平、上曾 博、江坂 文寿、江村 玲子、及川 カイラス、及川 真理子、大家 豊、大金 重秀、大久保 春美、大窪 道治、太田 寛、大月 良則、大野 翔太、大野 昌彦、大野 美里、大林 圭司、尾形 好雄、岡村 美紀、岡村 倫子、岡本 宜樹、小川 賢一、小口 利幸、奥原 仁作、奥村 圭輔、小笹 明人、小野 圭介、小野 秀樹、尾上 昇、織田 央、梶 正彦、柏木 昭憲、加藤 貴史、加藤 祐助、金井 博子、金山 洋太郎、鎌倉 孝光、上條 亮、上條 香月、上條 貴春、上條 靖尚、上條 温、上條 芳敬、神谷 圭子、亀澤 玲治、加茂 卓也、唐木 真澄、柄澤 深、川久保 文良、川崎 深雪、川崎 高志、神崎 忠男、神澤 経子、神澤 陸雄、神田 文之、木内 均、北川 桜、北川 俊文、木村 晴壽、木村 正恵、清沢 英男、桐井 誠、工藤 剛、國島 芳明、久保 秀人、黒岩 裕美子、小坂 壮太郎、小島 健太郎、後藤 茂之、小林 あや、小林 綾子、小林 きみ子、小林 銀一、小林 千穂、小林 利弘、小林 弘明、小林 博幸、小林 政志、小松 聡、小松 裕、小山 聡、小山 義秀、今 史靖、近田 康弘、近藤 晴彦、近藤 幸夫、今野 絵里、齊藤 敬一、齋藤 聡、齋藤 志津人、齊藤 学、齋藤 元紀、酒井 明子、酒井 久徳、坂口 芳輝、坂爪 修、笹川 清夏、笹川 秀美、佐藤 和志、佐藤 浩市、佐藤 帯刀、澤田 佐久子、茂 茂、志賀 佳子、鹿井 実、重廣 恒夫、品川 幸子、品川 聖、篠原 邦秀、篠原 美津江、渋谷 晃太郎、渋谷 理恵、清水 和志、下川 正剛、下里 啓介、下里 雄哉、下澤 順一郎、下平 豊久、白砂 勇樹、Silvana Petkovic、新保 力、杉田 浩康、杉村 智春、鈴木 克昌、鈴木 啓三郎、鈴木 啓助、鈴木 衛、角 謙二、角田 謙之、関 昇一郎、関川 芳男、芹 洋子、大丸 浩二、高木 桂一、高木 道朗、高野 忠房、高橋 眞一、高橋 博幸、高橋 佑輝、田上 和儀、高山 康、田川 和夫、瀧澤 公也、武尾 豊、竹田 淳一郎、武田 良介、竹村 元尋、竹山 史朗、田近 勉、忠地 義光、辰野 勇、田中 修二、田中 鈴生、棚橋 邦雄、田邊 仁、塚原 真勝、塚本 瑞天、手島 泰夫、手塚 友恵、寺沢 功希、土岐 健、外山 亨、島海 宏、内藤 歩、中神 陽一、中川 岳、中川 宏昌、中島 茜、中島 太一、中島 治美、中島 英臣、中島 理恵、中條 功、中野 久美、中野 亨、中村 勇夫、中村 武雄、中村 達、中村 靖、中山 隆治、那須 潤也、成川 佐智子、成川 隆顕、新島 俊哉、費田 統理、西村 祐、西本 武志、野尻 和彦、萩原 浩司、橋渡 博之、橋本 岳、長谷川 健一、羽田 雄一郎、羽田野 雅司、八田 誠、早川 幸宏、林 新一郎、林 宏行、原口 尉、伴野 英男、備前 光正、尾藤 善之、平井 昭博、平賀 研也、平林 大高、福澤 崇治、福島 眞、藤澤 繁雄、藤澤 高徳、藤澤 泰彦、藤田 和也、藤村 健、船平 智之、ブラバス・パッハマン、降旗 義道、穂苅 康治、瀬籠 義雄、ホワイト あやめ、本郷 一彦、本多 基樹、本間 香菜子、前沢 光昭、政友 修、政友 佳子、松井 伸彦、馬塚 雅敏、松下 正樹、松本 久志、松山 盟、丸山 裕司、三木 正夫、美齊津 真崇、三島 文雄、水嶋 一雄、宮川 典子、宮澤 茂樹、宮澤 宗弘、宮下 敦子、宮下 一郎、宮下 昌子、宮下 秀樹、宮本 岳志、三代澤 理香、三代澤 康司、三好 大輔、向山 公人、務台 俊介、武藤 宗広、村上 文俊、村上 幸雄、村山 清人、毛利 栄子、望月 佳子、元川 里美、本村 松吾、百瀬 智之、百瀬 久、森 武昭、森 博幸、両角 友成、八木原 陽明、安井 康夫、安田 光伸、山浦 愛幸、山岸 晃、山口 孝、山崎 明、山下 勝好、山中 庸彦、山本 修、山本 啓、湯澤 麻紀子、横幕 信樹、横山 耕二、吉井 和美、吉井 秀磨、吉井 省一、吉池 優花、吉川 篤明、吉川 正幸、吉沢 武士、吉原 明広、吉原 夢姫、吉原 永子、吉原 久瑠実、吉原 美樹、羅 玉泉、ラマゲル、渡辺 敬介

登壇者

衛藤 征士郎(超党派「山の日」議員連盟会長)、山本 公一(環境大臣)、阿部 守一(長野県知事)、菅谷 昭(松本市長)、松沢 哲郎(京都大学高等研究院特別教授)、磯野 剛太(全国山の日協議会理事長)、上條 敏昭(上高地町会長)、野村 朋美(警察庁生活安全局地域課 理事官)、杉本 達治(消防庁国民保護・防災部長)、神山 修(文部科学省 大臣官房審議官)、木村 徹也(スポーツ庁審議官)、今井 敏(林野庁長官)、西山 幸治(国土交通省水管理・国土保全局砂防部長)、加藤 庸之(観光庁観光地域振興部長)、小林 正明(環境省環境事務次官)、奥原 幸(上高地観光旅館組合長)、山田 直(北アルプス山小屋友交会長)、小日向 義夫(松本市アルプス観光協会長)

出演者(順不同、敬称略)

C・W・ニコル(作家、環境保全活動家、探検家)、油井 亀美也(宇宙飛行士)、小澤 征爾(指揮者)

セイジ・オザワ松本フェスティバル プラスアンサンブル

ティモシー・モリソン(Conductor: OMF金管室内楽勉強会講師、元ボストン交響楽団副首席・ボストンポップス首席・エンパイアプラスメンバー・SKOトランペット奏者)、カール・ゾードル(Trumpet: グラーツ交響楽団首席)、高橋 敦 (Trumpet: 東京都交響楽団首席、洗足学園音楽大学・上野学園大学各客員教授、東京音楽大学講師)、ヤン・ヴォボウイユ(Horn: チェコ・フィルハーモニー管弦楽団ソロ首席、ソリスト・ヨーロッパアンサンブル・ルクセンブルク・ソロ首席)、鶴井 正幸(Horn: 桐朋学園大学教授)、マイケル・ブキャナン(Trombone: ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン国立歌劇場管弦楽団、元スコティッシュ・オペラ管弦楽団首席)、呉 信一(Trombone: 京都市立芸術大学名誉教授、東京音楽大学教授)、杉山 康人(Tuba: クリーヴランド管弦楽団首席)、鈴木 知佳(Trumpet: 東京音楽大学)、村川 亮(Trumpet: 尚美学園大学)、山野井 大輝(Trumpet: 尚美学園大学)、由井 達(Trumpet: 尚美学園大学)、芦田 明(Horn: 桐朋オーケストラアカデミー)、佐藤 香納(Horn: 武蔵野音楽大学)、大泉 菜弓(Trombone: 東京音楽大学)、木村 雅樹(Trombone: 東京音楽大学)、西方 舞(Bass Trombone: 東京音楽大学)、石堂 優二郎(Tuba: ミュンヘン音楽・演劇大学)、保坂 徹平(スタッフ)、玉那覇 正樹(スタッフ)、杉浦 友彦(スタッフ)、平林 直人(スタッフ)

- 安曇小学校 有馬 慶門、飯野 優、大野 優太、小川 真奈、奥原 幸紀、奥原 暖、中山 和弥、藤田 結月、藤山 和弘、百瀬 靖乃、○安曇中学校 上條 慎吾
○大野川小学校 小澤 周平、齊藤 具海、齊藤 圭吾、齊藤 仁菜、八田 爽羽、マカリスター・エゼキエル、八懸 一星、山口 瀧音、山崎 将太郎
○大野川中学校 寺原 圭理 ○奈川小学校 大久保 智喜、大橋 萌乃莉、奥原 紀、古幡 小政、小林 優介、白川 富茜、白川 富雅、高田 里穂、高田 穂里
○奈川中学校 奥原 愛希

司会(影アナウンス)

浜中 弘樹

中継スタッフ

○(株)NHKアイテック 川野 順一郎、天野 裕治、柴田 正啓、佐藤 一裕 ○NEC放送・メディア 中田 靖久 ○デジコン(株) 酒井 康裕、酒見 純平、大川 弘記、坂井 優基、山本 善宣、根本 誠、伊地知 学、広瀬 曉彦、田村 奈津美 ○(株)衛星ネットワーク 松本 崇良、深見 智樹 ○(株)エイ・コスモス 岩本 尚、野村 幸一、寺野 誠 ○(株)ニューメディア 吉井 勇 ○(株)ビデオ・テック 平石 能敬 ○(株)テレビ松本ケーブルビジョン 伏見 聡、宮之本 伸、白鳥 忠夫、浅輪 英典、高谷 昌伸、栗澤 傑、小林 弘幸、西村 直也、横山 匠、松田 貴之、倉野 萌、塚原 智成、伊藤 光平、林 ゆきの、小岩井 美佳、飯村 美紀、塩原 麗子、高野 忍、葛谷 尚孝、北原 雅哉、酒井 浩、中村 允彦、犬飼 稜、南波 宏行 ○須高ケーブルテレビ(株) 渡邊 聖人、丸山 康照 ○エルシーブイ(株) 田中 俊行、○伊那ケーブルテレビジョン(株) 伊藤 秀男 ○(株)飯田ケーブルテレビ 吉川 治司 ○ジャパンケーブルキャスト 目崎 秀雄、桑田 龍聖 ○NHKエンタープライズ 鈴木 弘亮 ○NHK放送文化研究所 村上 圭子 ○日本デジタル配信(株) 吉田 哲也

ロゴマークオブジェ制作

(有)アルプ

記録撮影

宇留賀 裕、田中 増矩、山田 毅



成川 隆顕

大会宣言起草委員

公益社団法人日本山岳会「山の日」事業委員会委員

「山鐘」を聴く

記念式典の会場に響いた八つの鐘を聴きながら、国民の祝日としての「山の日」がついにスタートしたことに感慨を覚えた。点鐘の一つひとつに、さまざまな山への思いや願いが込められていると大会のガイドブックにある。あらためて祝日制定の意義と山と向きあうことの大切さを思った。

日本山岳会など山登りが好きな5つの山岳団体が祝日「山の日」を制定しようという運動を始めたのは7年ほど前だった。動きは徐々にだが全国的な広がりを見せ、2011年11月、松本市では第1回の「山岳フォーラム」が開かれた。

菅谷市長の挨拶は「岳都松本からの発信で、山岳環境の保全や山岳文化の継承、登山による健康づくりと安全登山の啓発が進み、すべての人々が山を考え、山に親しむことを祈念します」だった。

式典の日の「山鐘」には、菅谷市長の、あの日の挨拶に集約される多くの願いが込められていた。

上高地での記念式典のあと市民芸術館で催された「祝典」では鐘の数が11にふえた。プラスされた3つの鐘には、来年の大会の成功への祈りと共に、「子どもたちに明るく豊かな山の未来を託す思い」が込められていた。

国民の祝日が施行されたいま、山岳団体も主要メンバーとなっている一般財団法人全国山の日協議会の目的も、これからの「山」と「人」とのあるべき姿を見据えて設定されている。次世代へと続く運動に、ご理解とご協力をたまわりたい。



記念品

県内外各地より上高地での記念式典にお越しいただいた皆様に、感謝の気持ちと山への思いを込めて記念品をお贈りいたしました。記念品によって「山の日」の制定趣旨を表現し、皆様に今大会の思い出や、山に思いを巡らせていただけることを願い、山や山の恵みに関するストーリーを持ち、松本市をはじめ長野県各地の歴史や文化に触れることのできるものを選びました。

■実行委員会製作 木製記念品

山の恵みの一つである木を使った記念品を製作したいと考え、大会のロゴマークを配した信州産の木材製品の記念品を5月25日から6月8日にかけて公募し、12の企業から32点のご応募をいただきました。木の良さが活かされた品々の中から、山や山の日についてのエピソードがあり特別感が出せることや、お持ち帰りいただく際の大きさに配慮すること等を選定基準とし、下記4点を採用いたしました。

○漆塗りとち椀(酒井産業株式会社)

和の伝統技術と、洋の洗練されたデザインが融合した美しい椀です。持つ人の手に優しく馴染み、使い込むほどに味わいのある艶が生まれます。



○木曾ひのき小判メンバ(酒井産業株式会社)

木曾・奈良井宿に伝わるひのきの曲げわっぱです。非常に軽い材の木地に何度も漆を塗り重ね、丈夫に仕上げています。傷んでも塗り直しができ、長く付き合える弁当箱です。



○山の日時計(長野県木材協同組合連合会)

ひのき材を外枠に使用し、文字盤に大会ロゴマークをあしらった卓上時計です。可愛らしく実用的で、滑らかな木肌の温もりが和みます。



○漆塗リマグネット(未空うるし芸)

木目を生かしたツキ板に、美しい漆塗りが施されたマグネットです。山にちなんだ深緑、紅葉を思わせる赤、摺漆の定番色である茶の3色がセットになっています。



協賛企業及び実行委員会構成機関の皆様からも、山に関係のある物品をご提供いただき、実行委員会が準備した木製記念品とその他の物品を加え、充実した記念品セットを用意することができました。ご協力くださった皆様に、改めて心より御礼を申し上げます。



ウェストンが残したクライマーズ・ブック(第1回「山の日」記念全国大会実行委員会)英国人登山家ウォルター・ウェストンが清水屋(現上高地ルミエスタホテル)に残した外国人登山者のための署名簿。のちの登山者のための指南書の役割も果たしました。今大会の開催を記念し、初めて全訳の刊行が実現しました。ナノタオル(櫛finetrack)水だけで汚れや皮脂・油を落とすことができるアウトドアタオルです。チキンラーメンとコッヘル(日清食品ホールディングス(株))お湯があればどこでもおいしく手軽に食べられるインスタントラーメンとコッヘルです。



山の酒 大雪渓(大雪渓酒造(株))北アルプスの雪が伏流水となって湧き出た水を汲み上げて作られた日本酒です。白樺の大地(櫛信州芽吹堂)長野県の県木「白樺」をモチーフにしたチョコレート菓子です。アミノバイタルGOLDワンデーバック(味の素(株))携帯に便利な顆粒タイプのスポーツサプリメントです。バッグ(櫛モンベル)外から収納物が見えるメッシュトートバッグと、小さく折りたたみ携帯できるポケットプラライトトートです。トレーディングカード(林野庁)貴重な高山植物の保護を呼びかけるため作成されたトレーディングカードです。携帯ライト・クリア

ファイル・ポストカード(環境省)大会ロゴマーク入りのソーラーライトと上高地から見える景色をデザインしたクリアファイル、妙高戸隠連山国立公園や上信越高原国立公園、中部山岳国立公園の写真を用いたポストカードです。信州松本の水(松本市上下水道局)松本の「島内第1水源地」から採水したまろやかな風味の地下水です。ピンバッジ(第1回「山の日」記念全国大会実行委員会)大会ロゴマークの公式ピンバッジです。

在日オーストラリア大使館

Australian Embassy

イモジン・エバンス
Imogen Evans



オーストラリア大使館を代表し、第1回「山の日」記念全国大会に参加できたことを嬉しく思います。式典は有意義であり、ホスピタリティも素晴らしく、会場となった地域の景色は息をのむような美しさでした。オーストラリアと同様に、多様で美しい自然環境を持つ日本。「山の日」は日本の景観の重要な要素である山を祝福する日であり、記念すべき初めてのその祝日に同席できたことは私たちにとって大変喜ばしいことでした。日本の皆様、おめでとうございます。

I was pleased to be able to represent the Australian Embassy at the Inaugural National Ceremony for Mountain Day in Matsumoto. The festival was informative, the hospitality was wonderful and the location was breathtaking. Like Australia, Japan's natural environment is varied and beautiful. 'Mountain Day' celebrates an important element of the Japanese landscape, and it was our pleasure to be able to attend the first commemoration of this national holiday. Congratulations Japan.



グレート・ブルー・マウンテンズ地域 (1,215メートル ニューサウスウェールズ)

グレート・ブルー・マウンテンズ地域は2000年に世界遺産に登録されました。一帯には、ユーカリの自生する壮大な原野が非常に広範囲に広がっています。その原野環境の質の高さによって、世界遺産としての価値が高まると同時に、生態系の保持、保全が重要視されています。

起伏の多い台地、切り立った絶壁や、到達し難いほど深い渓谷によって生み出される息をのむような景観。そして生命に富んだ湿原。この傑出した自然環境に生息する珍しい動植物は、オーストラリアの生命の多様性や美しさをよく表しており、それらはオーストラリア独特のユーカリの群生と、そこに関わる動植物の進化の物語に大きく関係しています。

この地域はブルー・マウンテンズ、ウォレミー、イェンゴ、ナックイ、カナングラ・ボーイド、ガーデンズ・オブ・ストーン、サールメア・レイクスの各国立公園と、ジェノラン鍾乳洞自然保護区の8つの保護地域からなり、交通機関や、都市開発によって作られた通路により2つのブロックに分けられています。

深く切り込んだ砂岩の台地は海拔およそ100メートルから1300メートルに至り、尾根には玄武岩の露頭が見られます。近代の地質学の歴史において、この台地が気候の変動から生命を守る避難所としての役割を担ったことにより、豊富で多様な動植物が生き残ったと考えられています。中でもユーカリはその種の多様性から特に注目されており、世界中のユーカリの14パーセント強に当たる101種はこのグレート・ブルー・マウンテンズ地域に生息し、うち12種はシドニーの砂岩領域だけに見られると言われていました。

The Blue Mountains (1,215meters, New South Wales)

The Greater Blue Mountains was inscribed on the World Heritage List in 2000. The property includes very extensive areas of a wide range of eucalypt communities and large tracts of wilderness. The high wilderness quality of much of the Greater Blue Mountains constitutes a vital and highly significant contribution to its World Heritage value and has ensured the integrity of its ecosystems and the retention and protection of its heritage values.

The Greater Blue Mountains is an area of breathtaking views, rugged tablelands, sheer cliffs, deep, inaccessible valleys and swamps teeming with life. The unique plants and animals that live in this outstanding natural place relate an extraordinary story of Australia's antiquity, its diversity of life and its superlative beauty. This is the story of the evolution of Australia's unique eucalypt vegetation and its associated communities, plants and animals.

The property is comprised of eight protected areas in two blocks separated by a transportation and urban development corridor. These protected areas are the Blue Mountains, Wollemi, Yengo, Nattai, Kanangra-Boyd, Gardens of Stone and Thirlmere Lakes National Parks, and the Jenolan Karst Conservation Reserve.

The area is a deeply incised sandstone plateau rising from less than 100 metres above sea level to about 1300 metres at the highest point. There are basalt outcrops on the higher ridges. This plateau is thought to have enabled the survival of a rich diversity of plant and animal life by providing a refuge from climatic changes during recent geological history. It is particularly noted for its wide and balanced representation of eucalypt communities ranging from wet and dry sclerophyll to mallee heathlands, as well as localised swamps, wetlands, and grassland. One hundred and one species of eucalypts (over 14 per cent of the global total) occur in the Greater Blue Mountains. Twelve of these are believed to occur only in the Sydney sandstone region.



クレイドル山 (1,545メートル タスマニア)

クレイドル山は「クレイドル山＝セント・クレア湖国立公園」の北端エリアを形成しており、タスマニア原生地域として世界遺産に登録されています。ギザギザとした輪郭をもつ山の姿は野生そのものを感じさせ、一方で古代からの熱帯雨林や高山の大地、ボタングラス（イネ科の植物）と鮮やかな落葉ブナの林が、一帯を冒険する私たちを楽しませてくれます。ごつごつとした山肌に見られる凍るよ

うな水の流れ、氷河湖の静かな水面に映る松林、多様な野生生物などたくさんの見どころがあり、私たちを魅了してやみません。タスマニアで最も人気のある自然地域の一つであり、訪れればその人気の理由が自ずとわかるでしょう。

タスマニアでは、大自然を堪能しながら6日間のトレッキングをする「オーバーランド・トラック」が世界的に有名であり、このクレイドル山が出発点となっています。

Cradle Mountain (1,545meters, Tasmania)

Cradle Mountain forms the northern end of the wild Cradle Mt - Lake St Clair National Park, itself a part of the Tasmanian Wilderness World Heritage Area. The jagged contours of Cradle Mountain epitomise the feel of a wild landscape, while ancient rainforest and alpine heathlands, buttongrass and stands of colourful deciduous beech provide a range of environments to explore. Icy streams cascading out of rugged mountains, stands of ancient pines mirrored in the still waters of glacial lakes and a wealth of wildlife ensure there is always something to captivate you. The area is one of the most popular natural areas in Tasmania. A visit will reveal why.

Cradle is the starting point for the world-famous Overland Track, a magnificent 6 day walk that will take you through the heart of some of the finest mountain terrain.

オーストリア大使館

Austrian Embassy

ヘルベルト・ピヒラー
Herbert Pichler



アルプスはオーストリアの面積の約65%を占め、我々の文化や経済に常に大きな影響を与えてきました。アルプスのライフスタイルは、オーストリアの日常の文化に深く組み込まれています。スキーやハイキングはオーストリアで非常に人気があり、また多くの観光客も惹きつけています。そしてアルプスは、水やそれをもとにした電力、また木材といった重要な資源を私たちに与えてくれます。私たちは、その美しい景観を守り、壊れやすく繊細な生態系を保護して未来の世代に受け継ぐため、山間地域に複数の国立公園を設けました。

私にとって、日本の最も美しい地域の一つである上高地で開催された第1回「山の日」記念全国大会に参加できたことは、非常に喜ばしく光栄なことでした。山に特化した新しい国民の祝日をスタートした日本の皆様にお祝いを申し上げます。

The Alps have always had a big impact on Austria's culture and economics, as they cover about 65% of our territory. No wonder the "alpine life style" is deeply embedded in the Austrian everyday culture. Skiing or hiking are extremely popular with Austrians and also attract a lot of tourists. The Alps also provide us with important resources such as water / hydroelectricity and wood. At the same time, as we want to save their beauty and preserve the fragile ecosystem for future generations, we have founded several national parks in mountain areas. It was a special pleasure and honour for me to attend the Inaugural National Ceremony for Mountain Day in Kamikochi which is one of the most beautiful areas in Japan. Congratulations to Japan for launching a new national holiday dedicated to the mountains!



© Österreich Werbung, Fotograf Fiegl M.

グロースグロックナー (3,798メートル オーストリアアルプス (ケルンテン州 / 東チロル))

グロースグロックナーは、オーストリアで最も標高の高い山です(富士山(3,776m)とほぼ同じ高さなのです!)。“グロック”はドイツ語で“鐘”を意味することから、山の形が名前の由来となっているという説があります。グロースグロックナーは、ホーエ・タウエルン国立公園の一部であり、初登頂がなされたのは早くも1799年であったとされています。

Grossglockner (3,798meters, Austrian Alps(Carinthia/East Tyrol))

The Grossglockner is Austria's highest mountain (at almost the same altitude than Fuji-san!) Glocke means "bell" in German, so the name probably refers to the mountain's characteristic shape. The Grossglockner is part of the National Park "High Tauern". The first ascent took place as early as 1799.



© Österreich Werbung, Fotograf Weinhaeupl

ホーエル ダッハシュタイン

(2,995メートル オーストリアアルプス (オーバーエスターライヒ州 / シュタイアーマルク州))

ダッハシュタインを私たちに印象付けるものは、特別な石灰岩で形成されたその地質でしょう。この山は夏も冬も、登山者やスキーヤーで賑わいます。

Hoher Dachstein (2,995meters, Austrian Alps(Upper Austria/Styria))

The Dachstein's impressiveness is due to its geology which is characterized by a special kind of limestone. It's a favorite of climbers and skiers in both summer and winter.

中華人民共和国駐日本国大使館 Embassy of the People's Republic of China



範建民
Fan Jianmin

第1回「山の日」記念全国大会にお招きいただき、日本の皆様や他大使館の方々との初めての祝祭の時を共に過ごせたことを大変光栄に思います。

皇太子殿下を始めとするご来賓や主催者の皆様のスピーチを拝聴し、山の恩恵に感謝する心や山とのつながりを改めて思い起こすことができ、大変感銘を受けました。今後世界中で「人と山のつながり」というメッセージが未来の世代に受け継がれていくことを強く信じています。

最後に、この大きな大会の成功のためにご尽力くださった実行委員会の皆様に感謝申し上げるとともに、この大会が日本のシンボルとしてこれからも続いていくことを願います。

We are very honored to be invited to the Inaugural National Ceremony for Mountain Day and spend the first ceremony with counterparts from other embassies as well as participants within Japan.

We are impressed by the speeches from Crown Prince Naruhito and the organizers, which inspired us to appreciate again the benefits from mountains and to think about the connections with mountains. Besides, we deeply believe that the message of "people and mountain" will be passed on to future generations around the world.

At last, we appreciate the great efforts of the staff from the organizing committee that made this great event possible and hope this event to be continued as a name-card and symbol of Japan.



曹湛興

黄山 (1,860メートル 安徽省)

ユネスコの世界遺産であり、その景観や夕景、独特な形をした花崗岩の峰々、黄山松が有名で、温泉や冬の雪景色の素晴らしさも魅力です。

Huangshan (1,860meters, Anhui Province)

A UNESCO World Heritage Site, well known for its scenery, sunsets, peculiarly-shaped granite peaks, Huangshan pine trees, hot springs and winter snow.



俞悦

恒山(北岳) (2,016メートル 山西省)

恒山は中国の五岳の一つであり、道教の山としても広く知られています。懸空寺や北岳廟等の観光名所を有しています。

Mount Heng(Northern) (2,016meters, Shanxi Province)

It is one of the Five Great Mountains of China and also well-known as an important Taoist mountain. Famous areas: Hanging temple, Beiyue temple, etc.

ドイツ連邦共和国大使館

Embassy of the Federal Republic of Germany

マリオ・クレープス / フローリアン・イエーガー
Mario Krebs / Florian Jäger



素晴らしい山の日の始まりに立ち会えたことは、私たちにとって大きな喜びでした。日本が島国であることから、私たちは日本と海との関わりに目を向け、いかに深く山が日本文化に結びついているかをしばしば忘れがちだと思います。

山に関する日本語の表現の多くはドイツ語に由来しています。この事実は、両国の関係において山がいかに重要であるかを表しています。このことから、私たちはこの度の歴史的なイベントに参加できることを非常に幸せに思います。

上高地の美しい景色と、心あたたかな長野の皆さんとの出会いが、忘れることのできない「山の日」を作り上げてくれました。ありがとうございます。ダンケシェン!

It was our great pleasure being part of the wonderful inauguration of the Mountain Day. Since Japan is an island, we tend to link the country with the ocean and often forget, how deeply rooted mountains are in Japanese culture.

Many Japanese expressions in mountaineering derive from German. This shows how important mountains are in the relations of our two countries. We were therefore very happy to attend this historical event.

The beautiful landscape of Kamikochi and the encounters with the warmhearted people of Nagano have made this day an unforgettable experience for us! ありがとうございます and "Danke schön"!



ヴァッツマン (2,713メートル バーバリアンアルプス)

ヴァッツマンはドイツで最も美しい山です。国内では3番目の標高ですが、山のすべてがドイツ国内に位置しているケースとしては、最も高い山です。

Watzmann (2,713meters, Bavarian Alps)

Watzmann is the most beautiful mountain in Germany. It is the third highest of the country, but it is the highest entirely located on German territory.



ブロッケン (1,141メートル ハルツ山地)

ブロッケン は北ドイツの最高峰です。標高はそれほど高くありませんが、この山は神話の中で魔女たちの山と呼ばれ、ゲーテの戯曲「ファウスト」にも取り上げられています。

Brocken (1,141meters, Harz mountain range)

Brocken is the highest peak of Northern Germany. It is not a very high mountain, but it is often referred to as a mythical place of witches, a taken up e.g. in Goethe's "Faust".

イタリア大使館

Embassy of Italy

ジョバンニ・スコーバ
Giovanni Scopa



Photo by Yoshi Kitamura

グラン・パラディーゾ (4,061メートル ヴァッレ・ダオスタ州)

山の全てがイタリアの領内にある唯一の4000メートル峰です。1922年にイタリアで最初に指定された同名の国立公園の中心に位置しています。春・夏の彩り豊かな花々と鮮やかな緑、秋の紅葉、そして冬の純白の雪景色が四季折々の美しい自然の様相を作り出し、アルプス・アイベックスをはじめとする様々な野生生物が生息するこの地域は、名前の通りまさに「パラダイス」と言えます。

Gran Paradiso (4,061meters, Aosta Valley)

Whole Gran Paradiso is located in Italy although it is close to the border of Italy and France. This mountain is in the Gran Paradiso National Park which was established in 1922 as the Italian first National Park. Variety of beautiful flowers and vivid greens in Spring and Summer, Colourful Autumn leaves, and breathtaking snow scape in winter attract us every moment through a year. Also there are variety of lives such as Alpine ibex in this area. Gran Paradiso is exactly the "Paradise."



Photo by Yoshi Kitamura

モンテ・ビアンコ (4,807メートル (イタリア側頂上) ヴァッレ・ダオスタ州)

イタリア語で「白い山」という意味を持つモンテ・ビアンコは、ヨーロッパ最高峰として知られています。ふもとに広がるモンテ・ビアンコエリアはヴァッレ・ダオスタ州最西端に位置し、4000メートル級の山々と湖、溪谷と滝、森と氷河など、いつでも、どこにいても素晴らしい景色を堪能することが出来ます。特に主役と呼べる季節は冬で、スキーやスノーボード、スノーシューズ・ハイキングや犬ぞりツアーなど様々なアクティビティを楽しむことができます。

Monte Bianco (4,807meters(Italian side peak), Aosta Valley)

Monte Bianco is the highest mountain peak in Europe. Its name means "white mountain" in Italian. In the foot area of Monte Bianco, the westernmost of Aosta Valley, we can always enjoy great sceneries such as 4,000 meters class mountains, beautiful lake, valley and waterfall, forests and glaciers. The area is famous especially in winter season for variety of winter activities such as skiing, snow boarding, snow shoes hiking, and dogsled tour.

※文責:第1回「山の日」記念全国大会実行委員会

※Responsibility for wording: The Organizing committee for the Inaugural National Ceremony for Mountain Day

在日本ネパール国大使館

Embassy of Nepal

クリシュナ・チャンドラ・アリアル
Krishna Chandra Aryal



日本は、史上で初めて「山の日」を国民の祝日として発表しました。これにあたり、山岳地域である松本市上高地で第1回「山の日」記念全国大会を開催しました。

私も同様に山国の出身であることから、この式典に参加し一緒にお祝いできたことを光栄に思います。今後私たちは、将来にわたって山々を守っていくことの重要性を認識し、お互いに協力しながら取り組んでいくことが必要でしょう。

Japan announced Mountain Day as a national holiday for the first time in its history. On this occasion, Japan hosted the national ceremony for Mountain Day in Matsumoto and Kamikochi, the places of the mountains. As I am also from the mountainous country, I felt myself proud to attend in the ceremonies and celebrate it. In the future we also need to make awareness to save our mountains and need to work together to this end.



エベレスト (8,848メートル ソルクンブ)

世界最高峰の山であり、毎年何百人もの人々が海外から訪れ登頂に挑戦しています。

Mt.Everest (8,848meters, Solukhumbu)

This is the highest peak in the world. Hundreds of foreigners try to climb the mountain annually.



アンナプルナ地域 (8,000メートル以内 ネパール北部)

ネパールにおいて最も多様で人気のある登山エリアです。

Annapurna Region (Up to 8,000meters, Northern Part of Nepal)

Most diverse and popular trekking area in Nepal.

在日スイス大使館 Embassy of Switzerland

カロリーヌ・パウマン
Caroline Baumann



第1回「山の日」記念全国大会に、スイス大使館を御招待くださった松本市と上高地の皆様へ、心より感謝申し上げます。周りを囲む荘厳な山々、澄みきった川の流れや、古くから受け継がれる森。上高地の穏やかな景観に感嘆し、また日本の山岳の歴史について知識を深めることができ非常に有意義な滞在でした。「山の日」は、日本や海外の人々を自然と結びつけ、また日本の壮大な山岳の景観に感謝するために素晴らしいコンセプトであると思います。

My sincere thanks to Matsumoto and Kamikochi for giving the Embassy of Switzerland the opportunity to participate at the Inaugural National Ceremony for the Mountain day. Surrounded by majestic peaks, crystal clear streams and ancient forests, I enjoyed marveling at Kamikochi's tranquil landscape and enriching my knowledge on the history of Japan's alpine culture. The Mountain Day is a great concept that allows people from Japan and abroad to connect to nature and appreciate Japan's spectacular mountain scenery.



在日スイス大使館提供

マッターホルン (4,478メートル ヴァレーアルプス)

ピラミッド型をした巨大なマッターホルンは、世界で最も多く写真撮影された山だと言われています。この山はスイスとイタリアの両国にまたがっています。

Matterhorn (4,478meters, Valais Alps)

The Matterhorn with its pyramid-shaped colossus is said to be the most photographed mountain in the world. It straddles two countries, Switzerland and Italy.



在日スイス大使館提供

デュフール峰 (4,634メートル ヴァレーアルプス)

デュフール峰はスイスで一番の標高を誇り、ヨーロッパの中でも最も標高の高い山の一つです。4,000メートルを超える山々を10峰有するモンテ・ローザ山塊に属しており、デュフール峰もまた、スイスとイタリアの国境に位置しています。

Dufourspitze (4,634meters, Valais Alps)

The Dufourspitze is the highest mountain of Switzerland and also one of the highest in Europe. It belongs to the Monte Rosa massif which has ten peaks higher than 4000m. The Dufourspitze is located between Switzerland and Italy.

駐日英国大使館

British Embassy

グレッグ・マルハーン
Greg Mulheirn



これまで長野県には何度か訪れましたが、松本市や上高地に赴くのは初めてのことでした。美しい風景や人々のホスピタリティ、素晴らしい地元の食事、そして夜の輝く星を満喫しました。長野における英国と日本のつながりを知ることができたことも嬉しく思います。英国出身者として、ウォルター・ウェストンや、彼が上高地をヨーロッパへ広めた功績について興味を持って学びました。この度松本市や大会実行委員会の皆様よりあたたかいご招待をいただいたことに感謝いたします。近い将来また伺えることを楽しみにしています。

It was my first visit to Kamikochi and Matsumoto city though I have been to Nagano several times. I enjoyed the beautiful scenery, people's hospitality, great local food, and bright stars at night time. Learning about the UK-Japan links in Nagano was also good. As a British person, it was interesting to learn more about Walter Weston and his contribution to promoting Kamikochi in Europe. I am very grateful for the warm invitation from the Mountain Day Secretariat and Matsumoto city. I am looking forward to visiting again in the near future.



©VisitBritain / Joe Cornish

スノードン山 (1,085メートル ウェールズ)

ウェールズで最も高い山であり、アイリッシュ海の美しい景色を眺めることができます。

Mount Snowdon (1,085meters, Wales)

This is the highest mountain in Wales and has a beautiful view of the Irish Sea.



©VisitBritain / Joe Cornish

スカーフェル・パイク (978メートル イングランド)

こちらはイングランドで最も高い山です。私自身も以前、夜に登ったことがあります。ピーターラビットの著者であるビアトリス・ポターが長く住んでいたことで知られる、美しい湖水地方に位置しています。

Scafell Pike (978meters, England)

Also this is the highest mountain in England. I once climbed this up at night. It's in the beautiful Lake District of England where Beatrix Potter (author of Peter Rabbit) lived for a long time.

米国大使館

Embassy of the United States of America

アロン・ゴールド
Aron F. Gold



© アルパインツアースervice株式会社

レーニア山 (4,392メートル ワシントン州)

レーニア山はアメリカ西海岸地帯に連なるカスケード山脈の最高峰です。周辺一帯が国立公園に指定されています。富士山に似たその形から「タコマ富士」として親しまれ、富士山との姉妹山交流が続いてきました。中腹は高山植物の宝庫である一方、2100メートル付近からは氷河が発達し、荘厳な景観を作り出しています。

Mount Rainier (4,392meters, State of Washington)

Mount Rainier is the highest mountain peak of the Cascade Range in the west coast of the United States of America. The area around the mountain is designated as a National Park. Mount Rainier is the sister mountain of Japanese Mount Fuji. Their appearance looks similar to each other, so Mount Rainier is also known as "Tacoma Fuji." In the middle of the mountain there are variety of alpine plants, on the other hand grand glacier field is spreading from the altitude of 2,100m.



デナリ(マッキンリー山) (6,190メートル アラスカ州)

デナリ山はアメリカ北部のデナリ国立公園にある北米大陸の最高峰です。高緯度に位置するため気温・気圧ともに低く、また冬至の日照時間は5時間弱です。山頂からは四方に氷河が発達しており、毎年多くの登山者とその頂に挑戦をしています。登頂には高度な技術・知識・体力が要求されます。

Denali(Mount Mckinley) (6,190meters, State of Alaska)

Denali is the highest mountain peak in North America and located in Denali National Park and Preserve. The area has low temperature and low pressure because of its high altitude location, and the hours of sunlight in the winter solstice is less than 5 hours. Glacier is spreading on all sides from the top of the mountain and climbers need to have advanced technique, knowledge and physical strength when they challenge to the top of Denali.

※文責：第1回「山の日」記念全国大会実行委員会

※Responsibility for wording: The Organizing committee for the Inaugural National Ceremony for Mountain Day

日本の「山の日」を一緒にお祝いして下さった各国大使館に「カラマツ太鼓」(諏訪家太鼓店)をお贈りしました。

長野県産カラマツの有効活用を目指して製作された、このカラマツ太鼓の美しい外観と音色を楽しんでいただくと共に、第1回大会を思い出していただきたいと願いを込めました。

We sent a gift to each embassy to express our sincere appreciation for their attendance at the ceremony. This "Taiko" (Japanese drum, by Suwake Taiko Ten) is made of larch grown in Nagano. We hope they will remember the ceremony and their stay in Kamikochi with Taiko's sound.



「山の日」関係者による内閣総理大臣表敬

「8月11日」が国民の祝日「山の日」となり、広く国民に浸透するよう政府においても一層の御協力をいただくことを目的に、「山の日」関係者による内閣総理大臣表敬が行われました。表敬の際には、安倍内閣総理大臣に「山の日」記念切手の初刷りと「山の日」のCDが贈呈され、衛藤会長から第1回大会の概要説明がなされました。

■日時及び場所

日時：平成28年7月26日(火)午後3時45分から 場所：首相官邸

■出席者

安倍内閣総理大臣、丸川環境大臣(当時)、萩生田内閣官房副長官
超党派山の日議員連盟 衛藤会長、務台事務局長、(一財)全国山の日協議会 磯野代表理事理事長
日本郵便(株) 横山代表取締役社長兼執行役員社長、日本クラウン(株) 和田代表取締役社長、
日本コロムビア(株) 吉田代表取締役社長、船村徹音楽事務所(喜怒哀楽社) 福田代表取締役社長
第1回「山の日」記念全国大会実行委員会 阿部名誉会長(長野県知事)、坪田副会長(松本市副市長)



「山の日」記念植樹

初めての「山に親しむ機会を得て山の恩恵に感謝する」日である、平成28年8月11日の「山の日」の誕生を記念するための植樹活動が行われました。

■日時及び場所

日時：平成28年8月11日午前10時から 場所：衆議院議長公邸及び参議院議長公邸

衆議院議長公邸では、大島衆議院議長が主催し、午前10時から大ホールにて向大野事務総長が挨拶し、公邸庭へ移動、事務総長と吉田秘書課長がブナの苗木を植樹しました。大島衆議院議長は前日の会場づくりを見守り、作業員らを労っておられました。参議院議長公邸では、伊達参議院議長が主催し、午前10時10分から議長公邸庭にて中村事務総長が挨拶し、事務総長と八畝秘書課長がライラックの苗木を植樹しました。





務台 俊介

超党派「山の日」議員連盟 事務局長
衆議院議員 長野2区

「山の日」制定議員連盟の事務局長の立場を頂き、長野県内の皆様の強い要請を受けて、「山の日」制定に汗を流してきた者の一人として、長野県が誇る世界の至宝「上高地」で初の「山の日」記念全国大会が盛会に開催されたことに、深い感慨を覚えた。国民の祝日が多いわが国で16番目の祝日を設けることに対しては異論もあった。超党派議連を発足し、関係者のヒアリングや討議を重ね、異論に対しては丁寧に回答を用意し、議員の根回しを徹底し、私にとっては初の議員立法が実現できた。上高地で議連の合宿研修会も行い、「山の日」を必ず実現することを「上高地の誓い」とした。「山の日」が実現し、国民の多くの方が我が国にとって山が持つ意味を考え山に親しむ気持ちを持つことで、山岳地域に光が当たり、山岳地域が創生することを強く期待している。唯一残念であったことは、「山の日」の恩人谷垣禎一代議士が負傷により式典会場に姿がなかったことであった。



井出 庸生

超党派「山の日」議員連盟
衆議院議員 長野3区

記念すべき、第1回「山の日」記念全国大会に参加させていただき、誠にありがとうございました。「山の日」制定までの、皆様の長年の取り組みに心より敬意を表し、ご尽力に深く感謝申し上げます。

信州で暮らしていると、自然と接することが、いかに健全な精神の醸成にとって大切であるかを日々感じます。地元の自然は、私自身の政治活動の大きな支えです。また、かつて、落選中に鹿島槍ヶ岳に一泊しながら登ったことがあり、眼下に広がる雄大な景色の前に、決意を新たにすることをよく覚えています。

将来の、日本の主役である子どもたちにも、幼い時から、折に触れて山と接してもらい、山々を守ることが、国民にとって、かけがえのないテーマとなるよう願ってやみません。

信州に住む者として、また、一人の政治家として、山々の豊かな自然を守るために、微力を尽くして参ります。山を楽しむ全ての皆様の、益々のご活躍をお祈り申し上げます。



後藤 茂之
超党派「山の日」議員連盟
衆議院議員 長野4区



宮下 一郎
超党派「山の日」議員連盟
衆議院議員 長野5区

記念式典の思い出

「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」

これが、山の日制定にあたっての趣旨です。古来、山は信仰の対象であり、日本人は親しく山と関わり、山の恵みに感謝しながら、生活を営んでまいりました。特に山に囲まれた信州に住む私達にとって、山はいつも視界に入るものであり、春の山菜取り、夏の登山、秋のきのこ狩り、冬のスキーと四季折々の楽しみと安らぎを与えてくれる存在です。

山はあたたかく優しい面を持つ一方、時に厳しい一面を見せることがあります。平成26年には南木曾町で土石流災害が発生し、続いて御嶽山が噴火して戦後最悪の火山災害となり、それぞれ大きな被害をもたらし、尊い人命が失われました。山のもたらす自然災害への対策に怠りがあってはなりません。

これからも、山の自然に畏敬の念をもって接し、山との良いお付き合いを続けていきたいと思えます。そのために政策面からしっかりと力を尽くしてまいります。

記念式典が行われた朝は、林の中の道を歩いて河童橋近くまで散策をしました。素晴らしい天候に恵まれ、山々がこの日を祝うように美しく輝いて見えました。

私自身も「『山の日』制定議員連盟」に所属して活動して来ただけに、初めての「山の日」の記念式典が皇太子同妃両殿下並びに敬宮愛子内親王殿下をお迎えして、ここ上高地で開催されることをとても嬉しく感じました。

会場で配られた可愛い「ニンソウ」のコサージュが、私の地元の「飯田水引」で作られていたのも嬉しいことでした。

式典では、多くの皆様のご挨拶やメッセージを通じて、山の大切さや素晴らしさを実感することができました。特に、安曇・奈川地域の子どもさんたちによる、「山の未来への宣言」はとても感動的でした。

「山の日」が、これからも、次世代を担う子どもさんたちを含め、皆が山を大切に思い、行動する日として発展することを心から願っています。



小松 裕

超党派「山の日」議員連盟
衆議院議員 比例北陸信越

木内 均

超党派「山の日」議員連盟
衆議院議員 比例北陸信越

「山の日」が制定された記念全国大会が、岳都松本で行われましたこと誠におめでとうございます。

長野県に生まれ育った私にとって山は常に身近なものでしたが、特に思い出すのは信州大学の医学部生の時、医学部山岳部に入学し常念小屋診療所の開設に関わったことです。松本にキャンパスを置く信州大学の医学部が山小屋診療所を開設していないことは恥ずかしいことだと、急遽医学部の山岳部をつくり常念小屋に診療所を開設することになったのです。

そして医者になってからも夏の一時期を山上で診療所の一員として過ごしたことは私にとって大変貴重な経験です。登り切ったあと開ける稜線の眺望、山頂での達成感、そして山で食べる即席ラーメンの旨いこと、多くの方に山の魅力を味わって頂きたいと思います。

「山の日」の制定を機に、多くの方々が今後一層、山に感謝し、山と接してその素晴らしさを分かち合うようになることを祈念いたします。

20数年前、佐久市議会議員当時、全国運動の一環で『海の日』制定の意見書を国に上げました。素朴な思いで「長野県には海はないが、全国に誇る名峰があり、『山の日』を制定するほうが良いですよ」と先輩議員と話したことがありました。今回、国会議員として『山の日』制定にあたり、議員連盟の一員として参画することができ、感慨もひとしおでした。しかも第1回記念式典を岳都・松本市で開催でき、喜びに堪えません。

ところで、8月11日は、上高地にとっては書き入れ時。こんな機会は、滅多にないことですので、妻と長男[5歳]を連れ、大学の先輩が経営しているホテルに宿泊しました。私は、皇太子殿下、妃殿下ご出席の式典を満喫し、長男は、梓川沿いの散策を大いに楽しみました。一方、妻は、日頃の疲れがどっと出て、診療所のお世話になったり、県警の車で運ばれたりと・・・それはそれで我が家にとっても思い出深い『山の日』となりました！



橋本 岳
超党派「山の日」議員連盟
衆議院議員 岡山4区



宮川 典子
超党派「山の日」議員連盟
衆議院議員 比例南関東

第1回「山の日」記念全国大会が盛大に開催されましたことを心よりお慶び申し上げますとともに全国山の日協議会磯野剛太理事長はじめ関係各位のご精励の結果と存じ、心より敬意を表します。

国民の祝日「山の日」の制定に山の日制定議員連盟の一員として、全国山の日協議会理事として、そして1人の山好きとして関わることができ大変嬉しく思っております。また全国大会が上高地で開催され皇太子殿下同妃殿下並びに愛子内親王殿下のご臨席を頂いた事は大変光栄なことでした。

当日は厚生労働省の在京当番のため、山登りもせぬまま早々に帰京することになりましたが、前日に見た暮れゆく穂高連峰と河童橋、そして当日の早朝、梓川の清流に心を癒されながらの明神までの散策、穂高神社奥宮参拝は、東の間ではありましたが「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」ひと時を実感できました。豊かな自然を次世代に引き継ぐために今後も全力で尽力してまいります。

「こんな景色、見たことない！」。山梨を訪れた人がそろって口にするこの言葉は、最高の褒め言葉だといつも思う。日本トップクラスの山々に囲まれて育ち暮らす私にとって、日々山の偉大さを感じつつ、さまざまな恩恵を受けている。まさに山は私たちを守る力強さをもち、命を与える温かみも併せ持つ。だからこそ、「山の日」が国民の祝日として制定された時は心躍るような気分だった。そして、「『山の日』記念全国大会」が晴れやかな上高地で行われ、喜びはさらに膨らんだ。「一度は行ってみたい」と以前から勧められていた上高地。自然が織りなす美しさに、一瞬言葉を失った。今回初めての訪問となったが、山岳リゾートの造形美はあの地を愛する多くの山岳者の想いがそのまま形になったものだと感じた。山は確かに厳しい顔も見せるが、その多面性こそが山の価値であり、これからも「山の日」にいついつまでも山を愛で守る姿があることを願ってやまない。



鈴木 克昌

超党派「山の日」議員連盟 副会長
衆議院議員 比例東海



宮本 岳志

超党派「山の日」議員連盟
衆議院議員 比例近畿

第1回「山の日」にあたって

皇太子殿下御臨席のもと第1回「山の日」記念式典に出席できましたことは大変意義深いことでした。「山の日」は「山に親しみ、山の恩恵に感謝する」趣旨により、世界で初めての「山」を対象とした祝日の制定となりました。このことは長年制定に向けて活動してまいりました私にとって感慨深いものでした。我が国は国土の約7割を山地が占めており私達日本人は古くから山の恵みを享受し、自然とともに生きてまいりました。その自然を守り、山に対する畏怖、感謝の気持ちを次世代の子供たちに受け継いでいくことが私たちの使命であると強く感じております。この「山の日」の誕生を契機とし、山に関する歴史や文化、環境、観光、安全、教育等の「山と人」との関わり方を見つめ直し、様々な課題の解決につなげる契機とするとともに、次代を担う子どもたちと一緒に豊かで美しい「山の未来」を創造する第一歩となることを心より願い挨拶いたします。

「山の日」の制定を、超党派議員連盟の一員として心から歓迎したい。

しかし同時に、山には決して忘れてはならない歴史がある。「日本山岳会百年史」は戦時中の登山について、「近代登山は、すぐれて個人的な行為であるから、1940年前半の時期にあっては、存在する場を失いつつあった」と述べている。山岳会が中心となって1941年設立された「日本山岳聯盟」は、近代アルピニズムを否定し、その規約に「国民体力ノ向上ニ努メ以テ高度国防国家ノ一翼足ヲランコトヲ期ス」というような目的をかかげた。やがてそれも、翌年には「大日本体育会」の行軍山岳部会へと組み込まれていったのである。

「百年史」は「登山が戦争行為に役立つものとしたのは、日本山岳会の歴史上、消すことのできない汚点である」と厳しく指摘している。二度と再び、このような痛苦の歴史が繰り返されることのないように。「山の日」が「平和な山の日」であり続けることを、切に願って止まない。



羽田 雄一郎
超党派「山の日」議員連盟 副会長
参議院議員 長野



武田 良介
超党派「山の日」議員連盟
参議院議員 比例長野

記念すべき「第1回山の日記念全国大会」が、地元信州上高地で盛大に開催され、成功裏に終わりました事、お慶び申し上げます。また、大会にご臨席の皇太子殿下ご一家とご同席をさせて頂いた事は、大変光栄であり、私にとっても特別な日になりました。

私自身、山の日制定議員連盟に所属しておりましたが、記念大会開催にあたり、ご尽力を頂いた 国、長野県、松本市をはじめ、実行委員皆様に敬意と感謝を申し上げます。

さて、日本には、世界に誇れる山紫水明、風光明媚の山々が連なり、そこに育つ木々、清らかな川が流れています。未来を生きる子どもたちが夢を持ち、叶える為には、清らかで美しい自然が大切です。雄大な山々に抱かれ、子どもや孫たちが、清らかな環境の中で、立派に成長される事を祈念するとともに、山々がもたらす恵み、大切な自然を後世に受け継ぎ、自然を守る為にこれからも努めていく事をお誓いし、私のメッセージといたします。

「山の日」記念全国大会が、上高地で盛大に開催されましたことを、心からお慶び申し上げます。私も参加いたしまして、改めて山々の雄大さ、美しさを感じるとともに豊かな自然を守りたいとの思いを強めました。

私は長野県に生まれ、長野県で育ちました。私にとってのふるさとの山は、高社山(中野市)です。山の色付きや冠雪、その移り変わりを通じて四季を感じてきました。実家のりんご畑は高社山の麓にありますし、学校行事や家族とも高社山に登るなど、ふるさとの山は身近な存在でした。

自然環境は、一度失えば取り返しのつかないものです。全世界的に気候変動による環境影響が心配されています。私を含めこれからの社会を担う者は、全世界的課題に取り組むとともに、わがふるさとを知り、その地域にあった保全対策を実行しなければなりません。「山の日」がその契機になることを願っています。



向山 公人
長野県議会議長



犬飼 信雄
松本市議会議長

私の名前は「向山」です。伊那市在住で生まれてこの方、南アルプスの山々と向かい合ってきました。

そんな私が第90代長野県議会議長に就任した年の夏、記念すべき第1回「山の日」の全国大会が、岳都・松本市において開催されました。

昭和39年の東京オリンピックの開会式は、「世界中の青空を集めた」と言われた快晴でしたが、8月11日の上高地も日本中の青空を集めたような素晴らしい天気でした。

晴天のもと、上高地という我が国を代表する名勝に皇太子御一家の御臨席を賜り、これだけでも大会の大成功は約束されたようなものでした。

通常の公式行事ですとスーツ姿がお決まりですが、この記念式典は、山登りのスタイルというのも粋でふるっていました。似合ったかどうか分かりませんが、私も新調した山のいでたちで出席しました。

記念大会の開催によって、長野県の山の素晴らしさを全国に発信することが出来ました。大会運営に携わった全ての皆様に感謝を申し上げます。

記念すべき第1回「山の日」記念全国大会が、皇太子ご一家ご臨席のもと、山岳の都、岳都松本が誇る景勝・上高地で開催されましたことは、市民の皆様にとりましても誠に名誉なことであり、全国、更には全世界に向けて、本市の魅力を発信できたことは、この上ない喜びでございます。

山に思いを馳せますと、流れ出る清い水が、肥沃な大地をつくり、我々に豊かな実りをもたらします。それは、山が生命の源である事を表しており、偉大なるその存在に改めて感謝の念を禁じ得ません。山々に囲まれた本市は、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」という山の日を果たすには絶好の環境にあることから、世界に先駆けて、山岳を対象とした祝日を制定した趣旨や理念を、今後も内外に伝えていくと共に、未来を担う子どもたちが山を愛し、山の恵みに感謝できるよう次世代へ引き継いでいく責務があると感じております。

結びに、第1回「山の日」記念全国大会に関わっていただきました全ての皆様に、改めて御礼申し上げますとともに、岳都松本の魅力が一層輝きを増しますことをご期待申し上げます。

祝電

お祝い

第1回「山の日」記念全国大会のご開催を心からお慶び申し上げますとともに、皆様方の今後益々のご健勝とご活躍を祈念いたします。

姫路市長 石見利勝

第1回「山の日」記念全国大会の松本市での開催、誠におめでとうございます。

本日は公務のため出席できず、大変申し訳ございません。

山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝することは、山々に囲まれている岐阜県出身の私にとっても、大変喜ばしいことであり、次世代に繋ぐ第一歩の記念すべき日となりますよう願っております。

本日の記念全国大会の開催に際し、ご尽力されましたご関係各位、ご参集の皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

国土交通大臣政務官 参議院議員 大野泰正

お祝いの言葉

本日ここに、記念すべき第1回「山の日」記念全国大会祝祭式典が、皇太子同妃両殿下のご臨席を仰ぎ盛大に開催されますことを、心からお慶び申し上げます。

制定された「山の日」が、豊かで自然に恵まれた大地を潤し、山からの恩恵に感謝の気持ちを表し、国民の皆様にあいさつ親しまれる休日として、希望と勇気を与えてくれるものと確信いたしております。併せて、山の歴史、文化を守り、山岳県長野から、山の魅力を世界に発信する機会となることを願っております。

準備・運営にご尽力いただいた菅谷昭会長をはじめ実行委員会の皆様に感謝申し上げますとともに、ご列席の皆様のご健勝、ご活躍を心からご祈念申し上げます。

平成二十八年八月十一日

長野県議会議員 諏訪光昭

第1回「山の日」記念全国大会の開催、誠におめでとうございます。

本日の会がご盛会に行われましたことを心よりお祝い申し上げます。

皆様方の今後ますますのご活躍を祈念いたします。

衆議院議員 土屋品子

第1回「山の日」記念全国大会開催誠におめでとうございます。

世界で初めての「山」を対象とした祝日が制定されるに当たりご尽力いただきました関係者の皆様に心より敬意を表し、本日を機に日本から全世界の人々に山と親しみ、山に感謝し、山の未来を創造する機運が盛り上がることを大いに期待申し上げます。

山梨県 衆議院議員 中島克仁

第1回「山の日」記念全国大会開催にあたり、心よりお慶び申し上げます。

本日の開催にあたり、ご尽力下さいました皆様方のご努力に改めて敬意と感謝の気持ちをお伝え致しますと共に、本大会が、私たちを守り育ててくれる大いなる山々に感謝と次代へ繋ぐ山との関り方を改めて見つめることの出来る素晴らしい機会となりますことをお祈り致します。

大会のご盛会とご参集の皆様方のご健勝を祈念申し上げます。

参議院自由民主党幹事長 吉田博美

※お寄せいただいた祝電を、原文のまま掲載させていただきました
※御芳名の50音順に掲載させていただきました

祝祭式典 山の恩恵に感謝する

「山の日」の制定趣旨の一つ「山の恩恵に感謝する」ことを具現化するため、市民が参加して身近な山の恩恵を伝える・感じることができるプログラムにより、初めての「山の日」を迎えるお祝いの雰囲気をも十分に感じられる華やかな式典として実施しました。

■日時及び場所

日時：平成28年8月11日(木)午後2時30分から4時30分まで

場所：まつもと市民芸術館

■参加人数(約800名)

国会議員、行政機関、県内市町村長、県・市議会議員、協賛企業関係者、地元(地域)関係者、一般公募招待者 等

■充実した舞台装置と馬蹄型ホールによる会場の一体感

より多くの方々に参加いただき、「山の日」と「身近な山の恵み」を伝えたい。これを可能にする大型ホールとプログラムに没入できる舞台装置、舞台前面の生花の大会ロゴマーク((株)松本花市場制作)、練り上げられた演出で参加者をお迎えし、主ホール外には大会を象徴する大会旗や真派青山流家元である上條香月さんの生け花、手島泰六さんの「山の日」の書を配するなど、華やかかつ盛大なお祝いする雰囲気でも会場を包み込みました。

式典の司会進行はアナウンサーの平松奈々さんが務めました。

祝祭式典では、上高地での記念式典が台風等の影響により開催できない場合に備え、“荒天時プログラム”を用意しました。これは記念式典と祝祭式典の双方のコンセプトを一つにまとめたもので、皇太子同妃両殿下並びに愛子内親王殿下をお迎えして開催できるよう準備を整えました。大会当日は好天に恵まれ、当初計画通り上高地において記念式典が開催され、祝祭式典も通常プログラムでの開催となりました。



■プログラム

プロローグ (30分)	主催者登壇～紹介	
	「山の恵みに生かされて」(映像上映)	
	はじめまして「山の日」(映像上映)	
式典行事 (52分)	「山の日」はじめのことば 中島恵理副会長	
	国歌斉唱	
	主催者あいさつ 菅谷昭会長	
	歓迎あいさつ 阿部守一名誉会長	
	「山の日」の歌」表彰式	
	おめでとう「山の日」 ナビゲーター:石丸謙二郎さん	
	①	「山の日」誕生記念舞蹈～山を魅せる～ 白鳥バレエ学園、二山治雄さん
	②	「山の恩恵」とともに暮らす人々の声～山に授かる～ <small>三原栄一さん、大久保憲一さん、唐沢和廣さん 西条雄真さん、三浦輝さん、井野春香さん 永田千恵子さん、今井通子さん</small>
	③	「山の未来」を歌声に乗せて ～山と共に、未来へのハーモニー～ 波田少年少女合唱団
	つなげていこう「山の未来」 リレーセレモニー	
「山の日」結びのことば 坪田明男副会長		
エピローグ (24分)	盛り上がる「山の日」	
	①	山のコンサート① スズキ・メソード
	②	奈川獅子舞 奈川獅子舞保存会
	③	山のコンサート② スズキ・メソード
	記念全国大会グランドフィナーレ 山鐘(11山鐘)	

1 招待者・参加者入場

祝祭式典に参加される方の入場時間に合わせ、ケーブルテレビで全国にライブ中継した記念式典の様子や、アウトドア活動に関する長野県のPR映像を上映しました。



2 登壇者登壇～紹介

ステージ上には、今大会の主催者である「第1回「山の日」記念全国大会実行委員会」を構成する機関の代表者が登壇し、式典に御参列された皆様に紹介をさせていただきました。

登壇者が着装した鮮やかなトルコギキョウのコサージュは、松本市のハマ園芸(株)に製作していただきました。



3 プロローグ

【オープニング映像「山の恵みに生かされて」】

安曇野市の信州映像舎(株)に制作していただきました。

10分間の映像は「山の恵み」と「山との関わりを見つめ直す」の2つのパートによる構成で、「いつも身近にある山の恩恵」に気づかせてくれる作品です。

「山の恵み」

私たちの暮らしに欠かせない“水”、清浄な空気を生み出す“森”、資源として私たちの生活を支える“木”、山とともに暮らす様々な知恵を受け継いできた“山里”。山は日々の暮らしの中で様々な恵みに姿を変え、いつでも私たちの傍にあります。



「山との関わりを見つめ直す」

山の恵みと人々の生活が日常で交差するシーン。「水田」「湧水」「自然の学校(自然観察会)」「神社仏閣建築などの文化遺産」「伝統の祭り」を通じて、人々の生活に溶け込んだ“山”を思い起こし、美しく豊かな山を未来へ繋げていく大切さを教えてください。



4 式典行事

(1) 主催者あいさつ

中島恵理実行委員会副会長の「「山の日」はじめのことば」によって式典行事の始まりが告げられました。会場全体の「国歌斉唱」の後、菅谷昭実行委員会会長からの「主催者あいさつ」、続いて阿部守一実行委員会名誉会長の「歓迎あいさつ」がありました。



(2) 「山の日」表彰式

一般財団法人全国山の日協議会が公募した「山の日」作詞者への表彰を行いました。ポップス部門、演歌部門それぞれの最優秀賞と優秀賞の計4作品について表彰し、磯野剛太実行委員会運営委員長から表彰状と賞金(目録)が各受賞者に授与されました。

ポップス調の最優秀賞作品「山はふるさと」は、合唱曲としても相応しい作品であったため、プログラム後半の「おめでとう山の日」の中で波田少年少女合唱団により披露されました。

同じくポップス調の優秀賞作品「山が笑ってら」は、松本城公園で開催した「信州四方山祭りin松本城」で披露されました。



「山の日」歌

- 総合プロデューサー 船村 徹 氏(日本作曲家協会最高顧問)
 ○最優秀賞(ポップス部門)「山はふるさと」吉井 省一 さん ○最優秀賞(演歌部門)「山・美しき」関根 和夫 さん
 ○優秀賞(ポップス部門)「山が笑ってら」浦山 直己 さん ○優秀賞(演歌部門)「四季の山」川井 優文子 さん

船村徹は、平成29年2月16日に逝去されました。誰んでお悔やみを申し上げます。

(3)おめでとう「山の日」

「山の日」の制定を祝うために集った皆が「山の恩恵」を改めて見つめ直し、「山と人との関係」を未来へと引き継いでほしい。この想いを「山を魅せる」「山に授かる」「山と共に、未来へのハーモニー」という3種類の演出を組み合わせた複合芸術作品とも言えるプログラムで表現しました。進行役のナビゲーターは俳優の石丸謙二郎さんが務めました。

山からの授かりもの――。
受けとる。
助け守る。
支え合う。
人と山の繋がりは、
今も、
これからも、
ずっと、ずっと、遠い、その、先まで続いていく。
大切にする。
感謝する。
共に、生きる。
山が私たちに与えてくれた、モノ。
山に生きる、モノ。
ワタシタチは、
山と結びついている
だから、
山の未来を想う。
未来へと繋いでいく。



【シーン① 山を魅せる】「山の日」誕生記念舞踏

四季の山の映像を背景に、バレエダンサーが「山の精霊」となって山を表現し、「山の日」の誕生をお祝いしました。

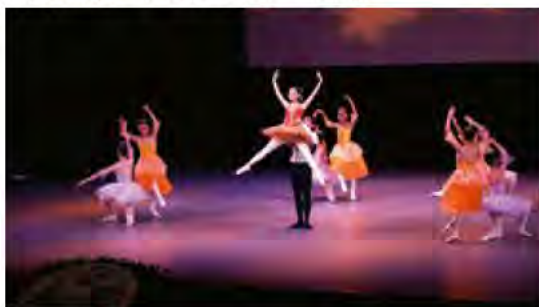
【春】花が咲き、鳥が目覚めて春の訪れを喜ぶ。



【夏】太陽と青空の元気な踊り



【秋】紅葉に彩られた華やかな踊り



【冬】冬の山の静けさや厳しさを表す



【フィナーレ】山の精霊すべてが「山の日」を祝う



出演：白鳥バレエ学園

1965年11月に設立。公演出演やコンクール出場など多数。過去6回の海外文化交流公演や、ロシアバレエフェスティバルバレエ団とのジョイント公演など、国境のない活動と貴重な舞台経験のなかで育った生徒の皆様は日本や海外のバレエ団で活躍されています。

出演：二山治雄さん

今回の舞台でメインダンサーを務めた二山治雄さんは松本市出身で、2014年のローザンヌ国際バレエコンクールで1位を受賞するなど、世界的な活躍が期待されています。

【シーン② 山に授かる】「山の恩恵」と共に暮らす人々の声
「山に授かる」と題し、大会ロゴマークにちりばめられた木、川、花、鳥、蝶、親子の各モチーフに因む活動をされている方々からメッセージをいただきました。



木

三原栄一さん
(有)アトリエエーワン代表

神奈川県湘南地区では住宅の外壁に古くから木材が使われています。強度があり木目ははっきりしている信州カラマツは、人気の高い製品です。一見、山から離れている都市部の人たちも実は、山の恩恵を授かっているのです。私はこれから山から貰った木材を大切に使っていきます。



川

大久保憲一さん
(根羽村長、根羽森林組合長)

長野県根羽村と愛知県安城市の間では、「矢作川水源の森」計画による30年間の森林整備協定を結んでいます。水源林の整備や環境学習など、上流域と下流域がひとつの運命共同体として取り組みを行っています。「水を使うものは自ら水をつくれ」。先人の言葉を大切に清流の素晴らしさを発信していきます。



花

唐澤和廣さん、西条雄真さん、三浦輝さん
(上伊那農業高校)

自然豊かな信州でも、多くの動植物が絶滅の危機に直面しています。シカに食べられて、たった2株まで減少したアツモリソウ保護のため、人工増殖による取り組みを始めました。

成果が出るまでの道のりは長いですが、信州の素晴らしい環境を私たちが引き継ぎます。



鳥

井野春香さん
(猟師、けもかわプロジェクト代表)

ケモノたちは有害な生き物として年間何十万頭も捕獲され、その多くが利用されることなく埋められています。もったいない、命を大事にしたいという思いから、ケモノたちが暮らしの中で生きていけるモノとなるよう、活動を続けていきたいと思っています。



蝶

永田千恵子さん
(森林倶楽部21代表)

長野県安曇野市長峰山に「蝶の森」を整備しています。多様な自然環境の特徴を活かしながら里山づくりを進めた結果、12種類だった蝶の種類は現在82種までになり、かつての里山の様な蝶や植物がよみがえってきました。これからも豊かな自然環境を守り育てる里山整備を続けていきます。



親子

今井通子さん
(登山家、医師)

便利な現代社会において人間は、本来持つべき自然への対応能力を見失い、親も子も貧弱になっています。親子、また家族みんなで、山歩きやアウトドアスポーツなどを通じて、知的好奇心旺盛で感受性が豊かなたくましい子どもたちを復活させることが重要です。

【シーン③「山と共に、未来へのハーモニー」】

山と人のつながりを子供たちの歌に託し、未来へと繋げました。

曲目	美しいチロル、山はふるさと(山の日の歌最優秀作品)
波田少年少女合唱団(波田少年少女合唱団HPより引用) 2006年12月2日、波田地区を活動拠点に、歌の大好きな子どもたちに校外活動で歌う場を与えることで子どもたちの美しい歌声を広め、地域の活性化を図ろうという趣旨で設立しました。 音楽祭参加実績 ・第62回ニールベルト・ヨーロッパ青少年音楽祭(ベルギー) 日本代表として出場し、特別金賞「1st prize cum laude」受賞(2014年) ・少年少女合唱祭全国大会「こどもコーラスフェスティバル」(日本) 過去3回出場(2008年、2011年、2013年)	



(4)つなげていこう「山の未来」リレーセレモニー

「山」の文字と山を取り囲む自然をデザイン化した「山の日帽」。この帽子とともに「山の日」と「大会の理念」を次期大会に引継ぎました。「山の日帽」には、特別にあつらえたロゴマークピンバッジを付けています。

贈り手：菅谷 昭 松本市長

受け手：金田 尊男 栃木県環境森林部長



(5)「山の日」結びの言葉

坪田明男実行委員会副会長より祝祭式典行事の終わりが告げられました。



5 エピローグ

初めて迎えた「山の日」を振り返り、山と共に暮らしてきた人々の文化を伝えていく想いを込めた、大会のグランドフィナーレとなりました。

(1)「山のコンサート」

曲目	ガヴオット、きらきらぼし変奏曲、ちょうちょう、フィオッコのアレグロ ロングロングアゴー、子供の偉を
<p>スズキ・メソード(公益社団法人才能教育研究会HPより引用) 鈴木鎮一は、1930年代から、江藤俊哉氏・豊田耕児氏など、後に世界で活躍する優れたヴァイオリニストを育てましたが、それらの経験を踏まえ、1946年(昭和21年)、長野県松本市に「松本音楽院」を設立しました。 これがスズキ・メソードの出発点です。</p>	



山の恵み振り返り 「ありがとう」の想いを馳せる 今日はそんな感謝の日
毎日はなにげなく過ぎていく きょうも あしたも あさっても 1年に一度の「山の日」は 山のことを考えてみる
山よ、ありがとう みんなでつなぐ 山の未来 木々の声 鳥の声 風の声 水の声 蒼い空には 花が歌う
今日の おわりにもう一度 山のことを考えよう 祝祭の音色に包まれて おめでとう山の日
木々の声 鳥の声 風の声 水の声 蒼い空には 花が歌う 今日の おわりにもう一度 山のことを考えよう
祝祭の音色に包まれて おめでとう山の日

(2)奈川獅子舞

富山県南砺市から松本市奈川地区寄合度に伝わる市の無形民俗文化財で、村を荒らす大獅子と村人との格闘を表現する5演目のうち「きりかえし」「なぎなたどり」の2演目を演じました。



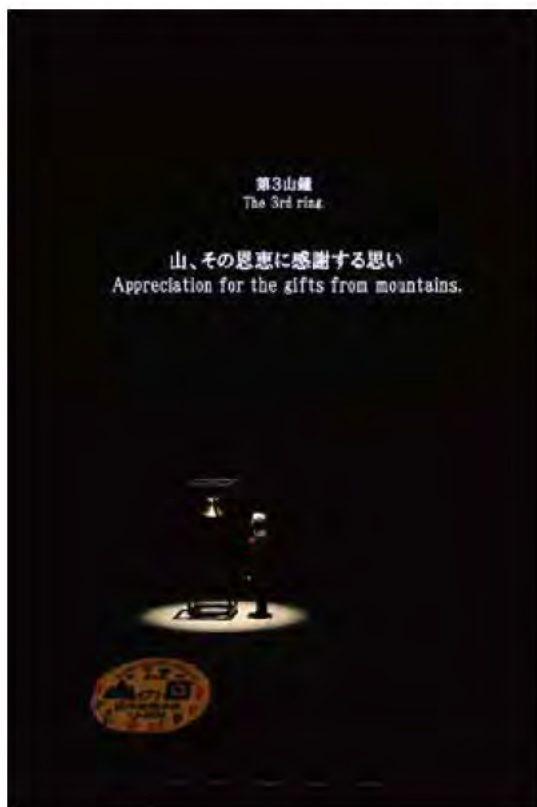
～勇猛果敢な獅子退治の舞～ 出演：奈川獅子舞保存会(松本市教育委員会HPより引用)
奈川寄合度(よりあいど)集落に伝わる獅子舞で、大正の初期頃に始められたものです。1頭の大獅子をなぎなたで仕留めるまでの舞で、笛や太鼓、鐘などの鳴り物と天狗のはやしが場を盛り上げます。
その昔、村々に大獅子があらわれて人々を苦しめていたのを天狗の手助けもあって仕留めることができたという伝説に由来する獅子舞です。
獅子舞は毎年9月第一土曜日に、寄合度地区の氏神(天宮大明神)境内においておこなわれ、午後7時より約2時間にわたって演じられます。舞は五種類あり、それぞれに①ぎおんばやし②きよもり③よしざき④獅子ころし、きりかえし⑤なぎなたどりと名称がついています。現在では、後継者の育成を図る目的とあわせて少年による舞を実施しています。

(3)山鐘(11山鐘)

式典と大会の閉幕を告げる「山鐘」。



坪田明男実行委員会副会長が、11回の鐘を撞くタイミングに合わせて、ひと撞きごとに定められた意義が会場のスクリーンに映し出されました。



記念式典の8山鐘の音とともに始まった初めての「山の日」は、11山鐘の響きが止むとともに終幕を迎えました。

招待者(50音順、敬称略)

青木 崇、青木 豊子、青木 正篤、青柳 都生、赤羽 都夫、赤羽 知道、赤堀 聡之、秋本 奈緒美、秋山 和俊、麻原 恒太郎、阿部 功祐、阿部 宏美、新井 寿一、荒井 武志、安念 彰二、五十嵐 祥二、池田 国昭、池田 佐代子、池田 秀幸、石井 香米、石井 幸一、石川 佳一、石川 貴大、石原 秀樹、板橋 健児、井出 高明、伊藤 かおる、伊藤 和久、伊藤 茂、伊藤 勇三、糸永 正之、福田 喜子、犬飼 明美、犬飼 信雄、吉野 謙章、井上 保、井上 晴樹、今井 敦、今井 匠、今井 ゆうすけ、今井 愛郎、今井 竜五、薄井 敦行、内ヶ嶋 史子、内川 博文、浦谷 公平、浦山 厚子、浦山 直己、江坂 文寿、大金 重秀、大久保 憲一、太田 昌孝、太田 由夫、大林 圭司、大村 公之助、小川 修一、柿澤 潔、鍛冶谷 洋一、勝野 智行、加藤 久雄、金原 英一、金子 直史、金子 ゆかり、金田 尊男、上條 香月、上條 敏昭、上條 俊道、上條 美智子、上條 温、上條 良文、亀澤 玲治、唐木 豊、唐澤 一寛、川上 正彦、川久保 文良、河内 孝、神田 耕一郎、蒲原 潤一、菊地 俊朗、北原 富裕、木次 文訓、草間 錦也、國島 芳明、久保田 亨、熊谷 秀樹、黒岩 裕美子、小池 清、小池 久長、小泉 俊博、小出 光男、合木 康典、小坂 信行、小島 実、小島 康晴、小林 あや、小林 銀一、小林 弘也、小林 伸陽、小林 東一郎、小林 透、小林 弘明、小松 重信、小松 裕、小森 良一、小山 聡、小山 仁志、小山 正広、今 史靖、近藤 功、近藤 晴彦、齊川 久善、齋藤 聡、齋藤 茂行、嵯峨 宏一、酒井 省三、坂本 幸祐、阪本 森人、佐々木 定男、佐々木 祥二、佐々木 寿、佐藤 幸基、佐藤 直樹、沢崎 泰弘、澤田 佐久子、沢田 治雄、椎屋 直孝、塩原 資史、塩原 豊、鹿井 実、芝山 稔、鳥村 晃、清水 純子、清水 哲弥、清水 秀樹、下平 洋一、須江 豊、杉本 幸治、鈴木 啓助、鈴木 利英、鈴木 昌司、関野 勝、曾我 逸郎、Sonam Choden、征矢 深志、田上 正男、高島 陽子、高橋 和之、高橋 二義、高橋 博幸、滝澤 栄智、滝澤 剛、田口 輝子、竹内 久幸、志地 義光、田中 えり、田中 潔、田中 忠、棚橋 邦雄、田邊 仁、塚原 昌夫、栗山 有二、土田 薫、土屋 英樹、筒木 起志夫、堤 達也、円谷 英夫、手塚 友恵、寺沢 功希、外山 崇司、内藤 歩、中神 陽一、中川 完治、中島 清、中島 則保、中島 治美、中島 昌子、中嶋 正治、中島 光章、中野 千尋、中野 亨、中萩 久夫、中村 慎、中山 隆治、西沢 正隆、西嶋 謙太郎、西田 一之、西村 祐、野村 朋美、萩原 清、橋渡 博之、長谷川 健一、羽田 雄一郎、羽田野 雅司、花岡 利夫、浜 章吉、濱田 州博、林 俊宏、林 智成、林 秀光、林 宏行、原 久仁男、原 礼子、樋口 尚宏、尾藤 誉之、平尾 勇、深川 安明、福嶋 良品、藤岡 義英、藤澤 草人、藤田 和也、古屋 寿隆、星川 嘉詔、穂高 健一、本郷 一彦、本多 基樹、牧野 光朗、松澤 徹、丸山 栄一、丸山 茂、丸山 貴史、南山 国彦、宮川 雅行、宮坂 郁生、宮崎 広雄、宮崎 正毅、宮下 正夫、宮島 和雄、宮島 敏雄、宮島 喜文、三好 大輔、向井 裕明、向山 公人、務台 俊介、村上 淳、村上 幸雄、壺 聖章、望月 雄内、本村 松吾、矢口 恒善、矢久保 学、柳島 貞康、柳田 清二、山浦 翔、山岸 晃、山岸 喜昭、山口 孝、山崎 英志、山本 啓、宮本 衛司、山本 敏雄、湯澤 麻紀子、横山 みさほ、吉井 和美、吉井 秀磨、吉井 省一、吉川 彰一、吉沢 武士、吉澤 猛、吉田 弘壽、吉見 精太郎、吉村 幸代、依田 明善、米村 匡人、和賀 正光、若林 真一、和田 明子、渡部 修

登壇者

衛藤 征士郎(超党派「山の日」議員連盟会長)、山本 公一(環境大臣)、阿部 守一(長野県知事)、菅谷 昭(松本市長)、中島 恵理(長野県副知事)、坪田 明男(松本市副市長)、磯野 剛太(全国山の日協議会理事長)、野村 朋美(警察庁生活安全局地域課 理事官)、杉本 達治(消防庁国民保護・防災部長)、神山 修(文部科学省 大臣官房審議官)、木村 徹也(スポーツ庁 審議官)、織田 史(林野庁 森林整備部長)、西山 幸治(国土交通省 水管理・国土保全局消防部長)、加藤 庸之(観光庁 観光地域振興部長)、小林 正明(環境省 環境事務次官)、山田 直(北アルプス山小屋友協会)、小日向 義夫(松本市アルプス観光協会)

出演者(敬称略、順不同)

○ナビゲーター 石丸謙二郎(俳優)○司会 平松奈々(アナウンサー)

○白鳥バレエ学園

二山 治雄、島田 梨帆、庭 秀美、中野 実香、滝代 理子、津野 史佳、宮下 華奈、堀田 結、水牧 真唯、内藤 玉芽、高谷 菜乃、古田 萌香、柿澤 紗名、近藤 奈々、中村 凜香、笠原 乙乃、山田 莉央奈、尾和 茜音、近藤 明瑛、佐野 雅、田中 仁奈、小原 花円、宮下 桃、太田 佳凜、小倉 心暖、下形 亮人、石崎 悠乃、安保 来実、安保 美紀奈、加藤 杏由夏、松本 瑞々花、浅輪 優花、松本 花野、塚田 まゆり(指導者)、塚田 たまよ(指導者)、桑原 奈穂(指導者)、宮下 智子(指導者)、水崎 夏美(指導者)、大塚 芳江(指導者)

○波田少年少女合唱団

小杉 真悠、蔵本 真子、有馬 彰也香、池田 菜奈、塩原 楓真、塩原 奈月、高橋 陽、福山 紗緒里、吉澤 彩花、船坂 風花、宮川 結菜、赤坂 ひびき、杉本 莉奈、鈴木 瑞菜、百瀬 綾音、川嶋 愛未、岩垂 愛莉、高橋 陸歩、高澤 楓、石川 さくら、一色 美結、佐藤 葉緒、船坂 花純、丸山 瑠花、上原 小信希、宮川 綾音、宮下 華捺、寺澤 綾乃、中島 綾香、林 優希、岩見 文、萩原 真翔、和田 佑子、川嶋 美沙希、川田 花、永田 結衣、丸山 亜可理、蒲生 純礼、野口 葉月、石川 晃、船坂 愛花、種山 紗奈、須田 花心、塩原 杏珠、平林 乃愛、小林 美桜、西川 航太郎、蒲生 龍之介、佐藤 野真、緑川 そよぎ、高澤 妃菜乃、北間 まお、緑川 かなで、伊藤 伶奈、金澤 千晴、蒲生 雛子、高澤 楓香、一色 真那、須田 詩乃、岩下 史弥(指揮者)、佐々木 美紀子(伴奏)

○三原 栄一((有)アトリエエワン代表)○大久保 憲一(根羽村長、根羽森林組合長)○唐澤 和廣、西条 雄真、三浦 輝(上伊那農業高校)○井野 春香(狐村、けもかわプロジェクト代表)○永田 千恵子(森林倶楽部21代表)○今井 通子(登山家、医師)

○スズキ・メソッド(公益社団法人才能教育研究会)

橋くるとみ、永沢 実宝、永沢 法香、武本 祐樹、武本 直樹、芳村 遼、木下 結愛羽、昌川 海瑞、昌川 海夏、小林 奏奈、松沢 龍、松沢 伸、裏 伶音奈、裏 航太郎、蛭田 杏、蛭田 麻、霜出 晃由美、昌川 真優、横沢 繁、田中 宏樹、井上 万有佳、井上 万理子、井上 万愛美、山田 裕子(指導者)、井上 悠子(指導者)

○奈川獅子舞保存会

奥原 清、奥原 清秀、奥原 健児、勝山 清茂、奥原 宏幸、奥原 喜照、勝山 崇史、丸山 仁也、奥原 健一、菅原 高章、志水 靖彦、奥原 和吉、奥原 貫、奥原 貴秋、奥原 健太、奥原 大介、古橋 浩和、奥原 信行、南 智也、奥原 昌平、志水 浩明、古橋 隆司、奥原 孝介、南 大和、奥原 頌

記念式典・祝祭式典 協力会社・STAFF(敬称略、順不同)

○(株)ながのアド・ビュロー:宮入 正永、水内 展将、白澤 寛子、竹節 忠広、白川 均、山本 三樹、児玉 航平、塚田 隆智、柳澤 昭宏、高山 敏、佐藤 将司、西澤 凌吾、宮坂 千尋、渡邊 篤、伊藤 博一 ○Onanabo:波田野 岳彦 ○(資)イープランナー:丸山 弘幸 ○(株)メディアライブホールディングス:櫻井 幸博、大沼 健志、北澤 恵莉、水澤 佑香 ○(株)アドインシグロ:松尾 優、前田 貢一、石坂 邦芳、田中 省三、竹澤 徹、八代 友真、伊藤 政和 ○大洋工芸(株):伊東 宏章、春日 孝文、小竹 大地 ○会場設備(株):近藤 真一、駒村 武夫 ○信濃毎日新聞社:北野 淳史、本山 悟、立岩 雅彦、宮島 悦雄、和田 博 ○(有)フリーランス:浜中 弘樹、黄田 英津子、尾鼻 浩二 ○(株)電通東日本:宮塚 重厚、広川 孝、岡田 泰明、中村 慎一 ○(株)電通テック:橋本 雄人、平原 岳、川島 広行、前川 弘二、谷澤 翔平、小田 良法、岩倉 哲郎、難波 昌道、家政 覚、真鍋 善司、遠藤 一朗、宮地 正 ○(株)電通イベントオペレーションズ:飯田 靖之、小林 剛、大神 寿幸 ○(株)アキープ:勝吉 昌一、越智 由季、水戸 唯之、白岩 俊一、小西 雅、木下 聖浩、岡田 晃次、佐々木 仁、川手 大旗 ○(株)ロングアイランド:藤田 あす香、三宅 英未、東 則子、大久保 良子、小川 裕子 ○ヒビノ(株)サウンドDiv.:徳平 佳久、佐々木 康裕、松井 巧、渡邊 慶 ○ヒビノ(株)ビジュアルDiv.:川上 徹、箕谷 敏一、猪 竜太郎、金 博征、佐藤 信三、名倉 洋平 ○(株)GeekStyleJapan:津村 健介 ○(有)アイトゥ:河合 宏樹、室崎 彩夏、柿本 梨菜、菅原 可奈子、坂田 昌之、相馬 純人、豊川 美央 ○城山:坂口 隆則、谷本 篤、大橋 勇佑 ○(株)マインド・スキル:西澤 賢大、小林 陵太郎、務台 康明、倉島 孝幸、細川 淳 ○(株)パリアスミック:吉沢 広幸、増尾 康男、松本 正光、山口 義雄、福 重敬、徳永 勝彦、山崎 栄二、堤 正広、伊東 宏章、中山 ツネオ、宮崎 祐二、春日 幹男、吉澤 東洋男、依田 勝治、川村 健二、堀内 満 ○トーマイ装飾:宮本 剛、藤村 重由 ○赤帽ハープ急配:山本 徳雄 ○赤帽すずらん運送:川上 匡章 ○赤帽カスガ運送:春日 幹男 ○赤帽トコブキ運送:島田 立志 ○インテックス:花岡 克美、関 俊夫 ○(株)長野三光:坂井 あづみ 【音響】飯村 篤史、西澤 健作、小林 昌洋、木下 淳、太田 英里、山本 和也、高橋 宏文 【照明】林部 幸一、山中 幸子、森野 修治、深澤 美悠、岡本 浩澄、小川 惠美子、安藤 英俊、渡邊 巖、半田 慎治、市川 淳 【進行】北田 稔明、木賀 文絵 【電源】青柳 秀一、大林 和昭、戸谷 賢幸 【給油】壺 吉弘、小倉 正詩 ○アトリエアニュリカ:黒岩 裕美子 ○(株)アクティオ:渡邊 宏、青山 意靖、池田 斎、池田 翔、相川 佳克、川村 裕司、河合 正輝、山本 弥寿人、丸山 芳幸、大久保 翔太、山崎 稔、中村 博茂、滝内 修、高田 直樹、小澤 祐介、高山 清志、植木 祐貴、萩原 隆充、福村 幸信、小原 貞男、穂刈 鉄馬、百瀬 匡、水谷 義仁、壺 比呂志、恩田 潤、関 真、大山 剛、後藤 克範、阿部 政貴、池田 孝士、奥原 優一、今泉 達紀、松尾 優也、森田 岳生 ○(株)古林運送:古林 秀夫、斎藤 伸一 ○青年座映画放送(株):石丸 謙二郎(再掲)、相沢 昭雄 ○(有)アジャンス・ドゥ・原生林:松本 芳明

○手話通訳

宮下 公子、浜谷 幸子

○記録撮影

横内 芳美、山田 毅、小野 元義、窪田 真一



石丸 謙二郎
祝祭式典ナビゲーター
俳優



吉井 省一
山の日の歌 最優秀賞(ポップス部門)
会社員

デンマークでは、「天にそびえる山」と呼ばれる山に国民が登山を楽しんでいる。その標高は、なんと171m。あらためて考えてみると、日本では、我らの背中にいつも高い山が見守ってくれている。登ろうと思えば、いつでも行くことができ、先人が辿った登山道が整然と頂きまで導いてくれる。急峻な岩場あり、なだらかな美しさの火山あり、紅葉豊かな裏山あり、滑りおる雪山ありと、生涯かけても登り切れないほどの山々に満ちている。もったいないとさえ思えてくる自然の宝庫だ。そして不思議な事に、自分の足で登った山は、のちにどこから眺めてもすぐにわかる。言い当てることができる。自分の宝物になったに違いない。

その宝物をひとつひとつ増やしていく楽しみを、「山の日」が後押ししてくれた。気持ち的には、一年中が山の日なのですが・・・



「おかえり、いい歌ができたね。」まつもと市民芸術館いっばいに響き渡る少年少女合唱団の素晴らしい歌声とともに、私の耳には懐かしい山々の声が聞こえてきました。父の転勤で引越しが多かった私は、同じ長野県の伊那市で少年時代を過ごしていたからです。春は残雪の美しい濃淡、夏は眩しいくらいの緑、秋は錦織りなす紅葉、冬は純白の衣をまとい、山はいつだってそばにありました。両親や従兄弟たちと登った宝剣岳の頂上からの絶景をはじめ、雄大な山々は父のように力強く、時に母のようにやさしく私をつつんでくれました。

山の日の歌が募集されていると聞き、これだけはどうしても私が書きたいと思いました。小さい子どもたちからお歳を召した方たちまでみんなで歌えるように作らせていただいた「山はふるさと」。これからは皆様一人一人の「山はふるさと」になっていくことでしょう。歌うたびに「やっぱり山っていいなあ。」とさせていただけることを願っております。



信州四方山祭り in上高地

今大会の理念に掲げる山の日制定趣旨を広く浸透・定着を図っていくために、山と共に生きる私たち信州人として、国内外から長野県松本市に訪れる皆様に、信州の山の魅力や価値を、日常的な目線でわかりやすく伝えていくことを目的に、音楽や講演など様々なプログラムを活用し記念行事を開催しました。

2日間とも好天に恵まれ、穂高の山並みを背景に作られたステージには、立ち見ができるほど多くの観光客や登山者等で賑わいました。

■日時及び場所

日時：平成28年8月10日(水)午前11時から午後8時30分まで

11日(木)午後0時から午後3時30分まで

場所：小梨平キャンプ場、徳沢キャンプ場

■参加人数

約6,900名(観光客、登山者等)

■ 10日は、雲一つない快晴の下、穂高連峰を一望できる小梨平の会場で、鈴木啓助信州大学理学部教授・信州山の環境研究センター所長が「山の恵み、そして山と海のつながり」と題した講演を行い、多様な山岳環境や水の大循環による山と海のつながりなどの話には熱心にメモを取る人がいました。ヨーデル歌手の北川桜さんによるヨーデルコンサートでは、観客も一緒にダンスをしたりアルプホルンを体験したりするなど、会場が一体となって盛り上がりました。司会進行は、橋詰真紀さんが務めました。



夜は、徳沢キャンプ場で山岳ライターの小林千穂さんによるワインの夕べ「8.11プレトーク」が開催され、満天の星空の下、観客はワインを片手に「山の日」イブを楽しみました。



■ 11日は、ヴィオラ・ダ・ガンバという15世紀末頃に出現した古楽器を演奏する品川聖さんのコンサートで幕を開けました。この日、初公開となるオリジナル曲の「上高地への憧憬」をはじめエーデルワイスなど、山を想起させる演目が続きました。品川聖さんは、前日、皇太子殿下ご臨席の下開催された歓迎レセプションでも、演奏を披露されました。歌手・芹洋子さんの「山の歌 うたごえコンサート」では、「四季の歌」や「山男小唄」「山は心のふるさと」など山の歌が披露され、観客も一緒に口ずさみながら聞き入っていました。



セイジ・オザワ松本フェスティバル プラスアンサンブルによる「山のコンサート」は、記念式典でも演奏された「ラ・ペリ」のファンファーレをはじめ、トロンボーンやホルン、トランペットなど金管楽器の音色が穂高の山々にこだまし、荘厳で華やかな音色が小梨平に響き渡りました。

最後に、二人とも8月11日が誕生日という女優の小林綾子さんと山岳ライターの小林千穂さんによる「8.11 Birthday 山の日トーク」と題し、子供のころから山に親しんだ経験など、女性ならではの山談義に花が咲きました。途中、ヨーデル歌手の北川桜さんのバースデーソングとケーキのサプライズがあり、お二人の誕生日を会場の皆さんとお祝いしました。

司会進行は、本間香菜子さんが務めました。

■ イベントパンフレット

信州 8/10 (水) in 上高地

四方山祭り

小梨平キャンプ場

11:00-11:45
 信州大学経済学部 鈴木 哲也 先生
 「山の恵み、そして山と海のつながり」

13:00-14:00
 テーブルダンス 北川 桜
 「山のヨーデルコンサート」

徳沢キャンプ場

19:45-20:30
 山語りイター 小林 千穂
 上高地「山の日」イブ ワインの夕べ「8.11プレトーク」

8/11 (木)

小梨平キャンプ場

12:00-12:30
 品川 聖
 「ヴィオラ・ダ・ガンバ solo」

12:45-13:30
 岸 洋子
 「山の歌 うたごえコンサート」

13:45-14:15
 セイジ・オザワ 松本フェスティバル プラスアンサンブル
 「山のコンサート」

14:30-15:30
 小林 綾子 & 小林 千穂
 トークショー
 「8.11 Birthday 山の日トーク」

■ イベント風景





鈴木 啓助

大会宣言起草委員／信州四方山祭りin上高地出演
信州大学理学部教授／信州山の環境研究センター長



賀来 千香子

女優

山の恵み

私たちにとって「山」は崇高な存在であり、昔から信仰の対象にもなってきました。山国生まれの私は、山を遠くから眺めるだけでも心の安らぎを覚えます。

日本は四方を海に囲まれています。国土の約7割が森林(山)であり、山と森の国でもあります。よく知られているように栄養分や土砂が山から海に運ばれることにより、豊かな海産物に恵まれ白砂青松の景観が維持されています。牡蠣を養殖する漁民が、海に注ぐ川の上流の森に植樹を続けていることもよく知られています。また、川にダムができることにより、山から海への土砂の移動が少なくなると白砂青松の景観が危機に瀕することも自明なことです。これらの栄養分や土砂を山から海へと絶え間なく運搬し続ける水は、海から蒸発して雲を作り山の上に降った雪や雨が源です。飲用水としてのみならず農業用水などの水資源として重要な役割を果たす大量の雪も、日本海と脊梁山脈の両者の存在が不可欠です。さらには、鮭が生まれた川に遡上して産卵後に息絶えることも、海から山や森の生き物へ貴重な栄養分を運んでいるとも言えます。このように、山と海はきわめて深いつながりがあります。「海の日」に続き「山の日」が国民の祝日として制定されましたので、この機会に山と海の恵みに感謝しながら自然環境を見つめ直し、その素晴らしい自然を如何に次代に引き継いでいくかに思いを巡らしては如何だろうか。

山や森はおいしい水を涵養するのみならず、植物の光合成により二酸化炭素を固定し、酸素を放出する役割を果たし、森の枝や葉には大気中を浮遊する塵や埃を効率的に除去する働きがあります。山や森は清浄で新鮮な空気の供給にも貢献しています。さらには、季節を通じて様々な食材を提供してくれています。スポーツの場としての健康増進効果にも優れており、山の恵みは実に多種多様です。ストレスの多い現代人が、山に登り森を歩くのも、山や森にはストレスを解消する力があるからです。

島国であり山と森の国でもある日本では、どこにいても山を眺めることができます。3km級の山々に囲まれている信州のように山が身近な所や、関東平野のように遠くに山を望む所まで様々ですが、海が見えるところは少なくとも山はどこからでも見えます。このように、日本では山の存在があまりにも普通のことのために意識することが少ないかも知れませんが、実に素晴らしい存在なのです。私たちがおいしい水と空気、そして山の幸を手に入れることができ、心の安らぎをも享受できるのは「山の恵み」のお陰です。山の恵みに感謝し、その恵みをもたらす自然環境を活用しながら保全していくことはとても大切なことです。

小さな奇跡

松本市のイメージアンバサダーとして、観光プロモーションDVD撮影のために松本市を訪れたのは、平成26年8月20日のことでした。

この年は夏になっても肌寒い曇天の日が続き、新宿発のスーパーあずさ11号の車中から見える窓外の重苦しい景色を眺めながら、無事に撮影ができるかしら。美しい景色がおさめられるかしら・・・と心配しつつ、松本駅に到着しました。

案の定、12時半に到着した松本市は、時折、小雨が舞うあいにくの天気でしたが、

(大丈夫!)私は「晴れ女」なんだから・・・

と自分に言い聞かせてから、寝床につきました。そうなんです。今まで私は映画やテレビの撮影で、ほとんど雨天中止になったことがないのです。おかげさまで撮影スタッフから「晴れ女」の称号?をいただいたりするほどなんです・・・(笑)

翌21日は、松本城や美術館、縄手通りや、あがたの森を歩いたり、松本市長さんとの対談等を精力的に撮り終え、とても充実した時間を過ごし、いよいよ夕刻、上高地に向かいました。その道中、鬱蒼とした山道を進む車に、大粒の雨が降ってきました。

「明日は、駄目だね」

「賀来さんのスケジュールは、明日しかないんだね」

私に配慮して、小声でスタッフの皆さんが囁きあっています。上高地の宿に着いても、宿のご主人が「まず、明日は無理だね・・・」と断言なさるほど・・・。少々心細くなりながらも、スタッフの皆さんと今日一日の心地よい疲労を労い、明日の天候を願いながら、和気あいあいと楽しく夕食をご一緒させていただいたことを、私は今でもはっきりと覚えています。

その気持ちが天に通じたのでしょうか。翌日は、宿のご主人でも「今年一番の晴天だ」と驚くほどの青空です。スタッフの皆さんも興奮して飛び回っていらっしやいます。

大正池、焼岳、河童橋・・・まるで上高地の全ての神様の祝福を浴びるように、私たちの撮影は、おかげさまで順調に進みました。見たこともないような鮮やかなグリーンシャワーに感激して、たびたび写メを撮る私に、スタッフから笑みがこぼれるほど。和やかで美しい時間が流れました。

平成26年8月22日(金)

小さな奇跡と共に、私にとって忘れられない素敵な思い出です。



小林 綾子

信州四方山祭りin上高地出演 / 山の日アンバサダー
女優

高く聳え立つ山々を背景に、上高地の爽やかな風を感じながら開催された第1回「山の日」記念全国大会。世界に誇る美しい日本の聖なる山が「国民の祝日」として認められ、本当に嬉しく思います。

子供の頃から続けてきた山登りは、私にとって丈夫な身体と健全な心を養ってくれる自然の学校でした。山での体験は私の宝物です。山は私達を災害から守り、雨を降らせ、そして田畑を潤し、沢山の恵みをもたらしてくれます。山へ一歩足を踏み出せば、自然の神秘に目がキラキラと輝き出し、心までも浄化してくれる、とても有難い存在なのです。その反面、自然の厳しさや恐ろしさをよく知ることも勿論大切だと思います。

「山の日」をきっかけに、山に登る人もそうでない方も、山や自然の素晴らしさ、地球温暖化など、世界規模で広がる深刻な環境問題についても思いを巡らせ、この豊かな自然を守り感謝しながら、次代を担う子供達へと繋げていくことを心から願っています。



小林 千穂

信州四方山祭りin上高地出演 / 山の日アンバサダー
山岳ライター

私は一人の山好きとして、「山の日」が制定されたことをたいへんうれしく思っています。何より注目しているのは、この祝日に盛り込まれた意義です。「山の日」制定への動きが高まった数年来、私も「山の恩恵」とは何かを考えながら山に登るようになりました。

鳥海山では山麓に湧く豊かな水に触れました。幌尻岳ではどこまでも続く原始の森を眺めました。また、この秋に行った黒部谷では、深い谷を削るほどの水の力を電力に変えている現場を目の当たりにしました。山の自然はどれだけ貴重で、私たちは普段の生活の中でそれをどのように利用させてもらっているのか、知れば知るほど重く感じます。

これからは登山をただ楽しむだけでなく、自分の経験を通して、より多くの人に山のすばらしさ、そして自然の恵みについて伝えていけるよう、山岳ライターとして活動していきたいと思っています。



信州四方山祭り in松本城

今大会の理念に掲げる山の日制定趣旨を広く浸透・定着を図っていくために、山と共に生きる私たち信州人として、国内外から長野県松本市に訪れる皆様に、信州の山の魅力や価値を、日常的な目線でわかりやすく伝えていくことを目的に、音楽や講演、ワークショップなど様々なプログラムを活用し記念行事を開催しました。

会場内では、松本市波田の特産品であるスイカが振舞われ、甘い果汁がたっぷり詰まったスイカにたくさんの笑顔が溢れていました。

■日時及び場所

日時：平成28年8月10日(水)午前10時から午後4時30分まで

11日(木)午前9時から午後4時30分まで

場所：松本城公園特設ステージ・二の丸御殿跡広場

■参加人数

約8,100名(市民、観光客等)

■ステージイベント

松本城公園のステージでは、松本市のマスコット「アルプちゃん」など長野県内のゆるキャラが集まったプチサミットが催され、子供たちや家族連れで賑わいました。

その他、登山家の花谷泰広さんによる「山の楽しみ方」や岡部和典さんによる「水のものごたがり」のトークショー、長野県松本蟻ヶ崎高等学校書道部による書道パフォーマンス、音楽演奏、ビンゴ抽選会などが行われました。

11日は、パブリックビューイングとしてステージ横に大型プロジェクターが設置され、上高地での式典の様子などを多くの市民や観光客が見入っていました。

司会進行は、野村恵美さんが務めました。



■ワークショップ

二の丸御殿跡広場では、協賛企業や関係省庁などのブースが出展した他、子供向けのボルダリングをはじめ箸作り、ヒノキの携帯升焼き印、ロボ木作り、ヒノキ玉プール、キャンプで役に立つ斧とナイフの使い方、ブッシュクラフトブーメランを作ろう、木のプレートに絵を描こう、シュラフ早入れ競争、細引きで作ろうプレスレット、ビーコンで宝探し、スタンプラリーなどのワークショップが行われ、親子連れや観光客、市民で賑わいました。



■ イベントサイン



信州四方山祭り in 松本城
入場無料

<会場>松本城公園特設ステージ・二の丸御殿跡広場

8/10(水) 10:00-16:30

ステージ

10:00 ~ 10:40 オープニングセレモニー
 10:40 ~ スイカふるまい(松本城裏庭園スイカ園5畝の収穫/児童1,000名)
 10:45 ~ 11:15 信州ゆるキャラ®プチサミット in 松本城
 11:20 ~ 11:50 間部和典トークショー「水のものがたり」
 12:00 ~ 12:15 アルパホルン演奏(松本アルパホルンクラブ)
 12:15 ~ 13:00 山の音楽祭(ニノ木実(Areal) & 高見舞(Shiga))
 13:15 ~ 14:00 山の音楽祭(東本海夏)
 14:15 ~ 15:00 上もやま抽選会(ビンゴ)※13:30から抽選イベント開始(参加者全員300人)
 15:30 ~ 16:30 山の音楽祭(お・あ・あ・あ)

8/11(祝) 9:00-16:30

ステージ

9:00 ~ 10:30 上高地パブリックビューイング
 10:30 ~ 11:30 信州ゆるキャラ®プチサミット in 松本城
 11:30 ~ 12:00 花谷泰広トークショー「山の楽しみ方」
 12:00 ~ 12:30 書道パフォーマンス(松本城の晴風秋葉道場)
 13:00 ~ 13:30 山の音楽祭(※参加)
 13:30 ~ 14:30 ゆるキャラ®グランプリ2016 エントリーキャラ大集合!!
 14:30 ~ 15:00 上もやま抽選会(ビンゴ)※13:30から抽選イベント開始(参加者全員300人)
 15:30 ~ 16:30 山の音楽祭(ハーモニア)

協賛企業ブース・出店ブース・ワークショップ

【協賛企業・出店ブース】 アルピコホールディングス(株) / 大雪鉄道機械 / 長野県 新 linetrack / 日本郵便郵便支社 / 日本費用補償少額短期保険機 / 好日山荘 / イオンリアル店舗 / 岡野電産アイ / スタジオ / 西井産業機 / (株) 王滝 / 松本市図書館 / 国土交通省 松本防務事務所 / 松本市上下水道局 / 農林省長野自然農業事務所 / 信州シビエ研究会 / 長野県 中部森林管理局 中部森林管理署 / エッジアンドソフター / シュマンベルク / スズキサトルワークショップ / Bush Craft Inc. / PICCHIO WORKS / 株式会社サクセン(順不同)

【ワークショップ】 ボルダリング/シュラフ早入れ練習/ビーコンで探検/著作印刷機で作るラブレット/木の機軸升巻き印/ロボ太一作り/森のデントハウス / ヒメ玉ボール/キャンプで役立つ斧とナイフの使いか/木のプレートに絵を描こう / プッシュラフトブームを作ろう / スタンパラリー/山と森の図書館(※要予約) / 陽雨体験

ワークショップ *予約随時受付
 各ブースにて参加申し込みください

8/10(水) 10:00-16:30

エリア/ブース	詳細	詳細	詳細	詳細
11:00	11:30-11:50 シュラフ早入れ練習	11:00-11:30 間部和典トークショー	11:00-11:30 間部和典トークショー	11:00-11:30 間部和典トークショー
12:00	12:00-12:15 アルパホルン演奏	12:00-12:15 アルパホルン演奏	12:00-12:15 アルパホルン演奏	12:00-12:15 アルパホルン演奏
12:30	12:30-13:00 山の音楽祭	12:30-13:00 山の音楽祭	12:30-13:00 山の音楽祭	12:30-13:00 山の音楽祭
13:00	13:00-13:30 山の音楽祭	13:00-13:30 山の音楽祭	13:00-13:30 山の音楽祭	13:00-13:30 山の音楽祭
13:30	13:30-14:00 山の音楽祭	13:30-14:00 山の音楽祭	13:30-14:00 山の音楽祭	13:30-14:00 山の音楽祭
14:00	14:00-14:30 山の音楽祭	14:00-14:30 山の音楽祭	14:00-14:30 山の音楽祭	14:00-14:30 山の音楽祭
14:30	14:30-15:00 山の音楽祭	14:30-15:00 山の音楽祭	14:30-15:00 山の音楽祭	14:30-15:00 山の音楽祭
15:00	15:00-15:30 山の音楽祭	15:00-15:30 山の音楽祭	15:00-15:30 山の音楽祭	15:00-15:30 山の音楽祭
15:30	15:30-16:00 山の音楽祭	15:30-16:00 山の音楽祭	15:30-16:00 山の音楽祭	15:30-16:00 山の音楽祭
16:00	16:00-16:30 山の音楽祭	16:00-16:30 山の音楽祭	16:00-16:30 山の音楽祭	16:00-16:30 山の音楽祭

8/11(祝) 9:00-16:30

エリア/ブース	詳細	詳細	詳細	詳細
10:00	10:30-11:00 シュラフ早入れ練習	10:30-11:00 シュラフ早入れ練習	10:30-11:00 シュラフ早入れ練習	10:30-11:00 シュラフ早入れ練習
11:00	11:00-11:30 間部和典トークショー	11:00-11:30 間部和典トークショー	11:00-11:30 間部和典トークショー	11:00-11:30 間部和典トークショー
11:30	11:30-12:00 花谷泰広トークショー	11:30-12:00 花谷泰広トークショー	11:30-12:00 花谷泰広トークショー	11:30-12:00 花谷泰広トークショー
12:00	12:00-12:30 書道パフォーマンス	12:00-12:30 書道パフォーマンス	12:00-12:30 書道パフォーマンス	12:00-12:30 書道パフォーマンス
12:30	12:30-13:00 山の音楽祭	12:30-13:00 山の音楽祭	12:30-13:00 山の音楽祭	12:30-13:00 山の音楽祭
13:00	13:00-13:30 山の音楽祭	13:00-13:30 山の音楽祭	13:00-13:30 山の音楽祭	13:00-13:30 山の音楽祭
13:30	13:30-14:00 山の音楽祭	13:30-14:00 山の音楽祭	13:30-14:00 山の音楽祭	13:30-14:00 山の音楽祭
14:00	14:00-14:30 山の音楽祭	14:00-14:30 山の音楽祭	14:00-14:30 山の音楽祭	14:00-14:30 山の音楽祭
14:30	14:30-15:00 山の音楽祭	14:30-15:00 山の音楽祭	14:30-15:00 山の音楽祭	14:30-15:00 山の音楽祭
15:00	15:00-15:30 山の音楽祭	15:00-15:30 山の音楽祭	15:00-15:30 山の音楽祭	15:00-15:30 山の音楽祭
15:30	15:30-16:00 山の音楽祭	15:30-16:00 山の音楽祭	15:30-16:00 山の音楽祭	15:30-16:00 山の音楽祭

信州四方山祭り in 松本城
入場無料

<会場>松本城公園特設ステージ・二の丸御殿跡広場

■ イベント風景





飯塚 帆南

信州四方山祭りin松本城出演
2016年度ミス日本みどりの女神

この度第1回「山の日」記念全国大会の信州四方山祭りin松本城に参加させて頂き、歴史に残る一日に携われたことを大変嬉しく思っております。

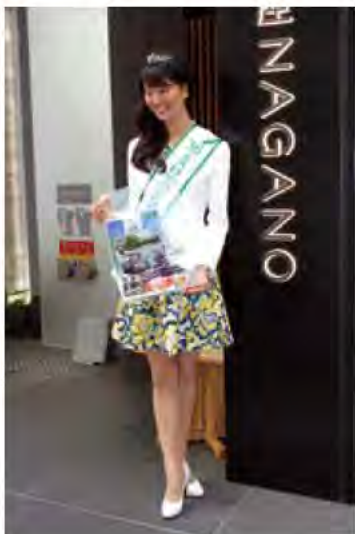
当日は天候が心配されていましたが、雲一つない晴れ日和となり、第1回「山の日」に大変相応しい天候だったことを今でも鮮明に覚えております。

開会式では「山の日」制定に当たって長い間尽力されてきた方々の熱い想いを直にお聞きし、今までの皆さんの努力がじわじわと伝わってきて、新たな祝日が誕生し、この日を迎えられることに感動を覚えました。

また、お祭りには長野県各地のゆるキャラ達がお祝いのために駆けつけてくれて、大人にとっても子供にとっても楽しい1日となったことが非常に印象的でした。

日本という自然豊かな国に住んでいるとつい山に囲まれた風景が当たり前だと思ってしまう私達ですが、実はご先祖様達の長年の努力のおかげで私達は日々山々の恩恵に恵まれているということを決して忘れてはいけません。「山の日」はきっとそれを思い出させてくれるきっかけとなると私は信じています。

近代はテクノロジーの発展等で自然との関わりが以前より薄れていってしまっている部分もありますが、今後も上手く自然と共存する日本人であり続けるために、自然に対する感謝、そして、次世代へと受け継ぐ使命感を忘れずに生きていきましょう。



「山の日」制定記念国際フォーラム

国民の祝日「山の日」は、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」ために制定されました。

山は、おいしい空気、清涼な水、豊かな生態系など、さまざまな恵みを届けてくれます。

私たち人間は、山に登ることで、山が育むすばらしい自然に触れ、山が織りなす壮大な景観を望み、そして心身の癒し、健康を得ることができます。

これからの時代は、そうした山の恩恵を一部の人のみならず、小さな子供、障がいをもつ人、高齢者、外国からの観光客など誰もが享受できる社会をめざしていくべきなのではないでしょうか。

本フォーラムは、第1回「山の日」記念全国大会の開催地である長野県をはじめ、イギリス、アメリカ、スイスなど雄大な山岳・自然環境を国内に有する各国大使館や観光局の関係者が集い、国際的な視点も含めた山岳ユニバーサルツーリズムの動向を共有し、よりよい取り組みを推進するための国内外のネットワークの構築をめざして開催しました。

■テーマ

「山岳ユニバーサルツーリズムの推進」 ～子供・外国人・障がいのある方などが親しめる「山」へ～

■日時及び場所

日時：平成28年8月10日(水)午後0時30分から午後2時まで

場所：あがたの森文化会館(長野県松本市) 企画協力：山と溪谷社



■プログラムスケジュール

- 12:30 オープニング 登壇者・来賓者紹介等
- 12:40 基調講演「山岳ツーリズムを目指す時代に」
秋山 哲男(中央大学研究開発機構教授)
- 13:00 国内外の山岳・自然を舞台とした
ユニバーサルツーリズムの事例報告
 - 中岡亜希(ata alliance代表[エーティーエーアライアンス])
 - グレッグ・マルハーン(英国大使館 政治部参事官)
 - アロン・ゴールド(米国大使館 経済部経済担当二等書記官)
 - ブルーノ・ハウスヴィルト(スイス・グリンデルワルト観光局局长)
 - 中島恵理(長野県副知事)
- 13:40 事例報告についての意見交換およびまとめ
- 14:00 終了



■基調講演抄録



「山岳ツーリズムを目指す時代に」 秋山 哲男(中央大学研究開発機構教授)

長年ユニバーサルデザインを研究してきた視点から、山岳ユニバーサルツーリズムに役立つと思われる事例をいくつか紹介したいと思います。

そもそもユニバーサルデザインとは、1980年ごろアメリカで提唱された製品・建築デザインのアプローチで、健常者から障がい者まですべての人がひとつの製品を同時に利用できる商品デザインをめざす考え方で、では、バリアフリーとの違いは何か？

バス車両の進化を例にすると、昔の一般的な路線バスは床の高さが80cmほどあり、ステップも高く、障がい者はもちろん、子供や高齢者も利用が困難でした。1991年にバリアフリーの考えから障がい者や高齢者向けのリフト付きバスが登場します。しかしリフトは障がい者や高齢者の利用に限られたもので、一般の健常者には関係のない装置です。そして1997年、ノンステップバスが登場して、障がい者・高齢者はもちろん子供から健常者まで、すべての人が同じ乗車口からバスに乗ることができるようになりました。これがユニバーサルデザインです。

2006年から羽田空港のユニバーサルデザイン化の取り組みに、調査・研究・建設の各段階で携わりました。エレベーターには障がい者向けのボタンの増設などさまざまな工夫をこらしました。しかし、誘導ブロックをコンシェルジュが常駐する案内所までに留めたのは、ほかの交通機関と大きく異なることです。たとえば、鉄道の駅では誘導ブロックや展示案内は隔々まで設置されます。これは駅という施設では、公道と同じように障がい者も自立行動が求められるためです。しかし空港は、人にもよりますが、年に数回程度しか利用しません。健常者にとっても、不案内な場所でコンシェルジュを利用するのはごく当たり前のこと。こうした施設では障がい者に完全な自立を促すのではなく、健常者の利用状況とすり合わせて施設をデザインすることも、ユニバーサルデザインの考え方です。

今後、山岳ユニバーサルツーリズムを推進していくには「自治体」と「個人(地元の人や山に登る人)」にそれぞれ役割があります。前者は「条例やガイドラインを作成し、山岳地のユニバーサルデザインを実践すること」であり、後者は「山岳地のユニバーサルデザイン化を行政とともに進めることと、障がい者や高齢者登山者を温かく迎えること」です。そのためには、ICT(情報通信技術)を活用したり、障がい者や高齢者をサポートできる専門知識・技術を有した人材を育成することが不可欠となります。

私の知り合いでリハビリテーション医療が専門の長谷川幹先生という人がいます。先生は毎年ハビリを兼ねて障がいをもつ患者さんと蔵王へ出かけています。ある患者さんは7年前まで寝たきりの状態でしたが、蔵王旅行を重ねるごとにどんどん元気になって、今では講演を行うまで元気になりました。「観光」という言葉の語源をたどると、中国の書物には「国の光を見る」と書かれています。その国の秀でたところ、すばらしい景色に出会い、訪れた土地で新しい発見をしてエネルギーをもらう。それは障がい者に限らず、私たち健常者が旅に出る目的と変わりません。そんな旅のありかたこそ、山岳ユニバーサルツーリズムのめざすべき姿なのではないでしょうか。

■事例報告「国内外の山岳・自然を舞台にしたユニバーサルツーリズム」



1 障がい者ツーリズムを可能にする人の手と知恵
中岡 亜希(ata alliance代表)

私たちata allianceは、障がい者や高齢者など多様な人たちが大自然を楽しめる環境構築をめざす活動を行っています。障がい者にとって整備された国立公園であっても大自然は遠い存在です。とはいえ、国立公園を舗装するなど大掛かりなバリアフリー化は環境負荷が高い上に、ありのままの自然が楽しめなくなり、合理的ではありません。そうしたときに人の手や道具、そして少しの勇気があれば、多様な人たちが一緒に自然を楽しむことができます。

ひとつの例として、障がいのある子供とその友人たちが車椅子を使い上高地でキャンプを楽しみました。上高地のバリアフリー化は駐車場から数分の児童橋までです。しかし、その先の国内外の人を魅了するすばらしい景色の中で友人と過ごしたい。子供たちの純粋な想いを叶えたのは、人の手とアウトドア用車椅子でした。

この「人の手」について、私たちはツアーヘルパーの養成を始めました。「行ける場所へ」ではなく「行きたい場所へ」。技術や道具、そして人の手が、大自然と触れ合うことが困難だった人たちの翼になれば、私たちの理念「私の手は誰かの翼」は、そんな想いから来ています。



2 「フットパス」と「通行権」に根ざすバリアフリー グレッグ・マルハーン(英国大使館 政治部参事官)

昨日、日本でも報道されましたが、四肢を切断された英国登山家ジェイミー・アンドリュース氏がマッターホルンの登頂に成功しました。この報道はイギリスについて2つのことを語っています。ひとつ目はイギリスは長い歴史の中で登山に対して強い関心を持ち続けていること。そしてふたつ目は、イギリス社会は能力のある人の行動を制限せずに支援し、その功績を正当に評価する文化があるということです。

イギリスの国内には、網の目のように張り巡らされた歩道「フットパス」があり、これは歩くことを楽しむための道です。また、イギリスには公衆の通路を誰もが自由に通れる権利「通行権」があります。国有地・私有地の別なく、何人も通行を阻害されてはならないというイギリス国民が有する基本的な権利のひとつで、それは障がい者も同じです。

フットパスのバリアフリー化は古くから行われており、特に2012年のロンドンパラリンピック以降、その動きは加速しました。2020年にオリンピック東京大会が開催される日本とイギリスは緊密な関係を結び、体験を共有していきたいと思っています。



3 すべての人に開かれたユニバーサルな国立公園 アロン・ゴールド(米国大使館 経済部経済担当二等書記官)

今年はアメリカの国立公園局が創設されて100周年を迎えました。また、世界で初めて障がい者の権利を保障したADA(障がいをもつアメリカ人法)が制定されて26年目を迎えています。ADAは雇用・交通機関・公共施設などあらゆる分野で障がい者の差別を禁じ、機会平等を保障した包括的な法律です。アメリカの国立公園制度もADAの下、公園を訪れるビジターはもちろん、公園を管理する被雇用者に対してもバリアフリーの整備、障がい者向けプログラムの提供を公約にしています。

たとえばロッキー山脈国立公園では、9つの登山道で車椅子の利用が可能で、障がい者を支援するサービスアニマルの入園を許可しています。また山岳地帯では、登山と同様にマウンテンスポーツも人気で、障がい者に適応した「アダプテッドスキー」の導入も盛んです。

ケリー国務長官は2015年の国際障がい者年において「さまざまなバックグラウンドの人とどう接するか、その態度が私たちの価値を証明する」という声明を発表しました。アメリカではすべての人に楽しんでもらえるように山々を開放しています。私たちの取り組みがインスピレーションとなり、世界中の山々で障がい者への支援が広がることを願っています。



4 グローバルな高齢化に対応する山岳リゾート ブルーノ・ハウスヴィルト(スイス・グリンデルワルト観光局局长)

スイスアルプスの山岳地方グリンデルワルトは、世界でも有数の山岳リゾートとして知られています。近年、グリンデルワルトを訪れる人たちの5分の4は高齢化が進んだ国からの旅行者で、おのずとビジターも高齢化の傾向があります。こうした高齢ビジターのニーズに応えるため、私たちが提供するサービスも変化しています。

また、ある研究では2050年には世界の人口の70%が大都市に住むと予想されているそうです。スイスのように美しい自然環境をもつ国は、こうした大都市圏からの旅行者が見込まれており、スイスを訪れる人たちに美しい大自然を満喫していただけるような施策を進めています。たとえば、山のトレイルは健常者でなくとも楽しめるようにバリアフリーになっており、今後は夏山だけでなく冬山も楽しんでいただけるように整備を進めたいと思っています。人口動態は今後数年で世界規模の転換期を迎えることでしょう。こうした潮流の変化に対して、スイスは準備を整えています。



5 おもてなしの心で山の恩恵をすべての人に 中島恵理(長野県副知事)

「日本の屋根」と呼ばれる南北・中央アルプスに代表されるすばらしい山岳環境は、長野県にとって大きな資産です。この資産をできるだけ多くの方に楽しんでいただくために、長野県ではさまざまな活動に取り組んでいます。たとえば、毎年国内外から数多く訪れる登山者に向けて、個々の体力や技術レベルに応じて自分に合った山を選択できる「信州 山のグレーディング」という指標を公開しております。登山道の標識の多言語化、公衆無線LANの拡充、車椅子でも楽しめる自然散策マップの公開も行っています。そして2016年3月に長野県で成立した「手話言語条例」に基づき、手話通訳付きツアーも開催するようになりました。介護職員の養成講座の中でもトラベルサポーターの養成を進めています。

長野県は世界でも有数の長寿県です。それは山から届く清浄な空気、清らかな水など豊かな自然環境のおかげだと思っています。国内外の高齢者の方、そして障がいのある方にこそ、そうした長野県のすばらしい自然を体験していただけるよう、これからも「ようこそ信州へ」というおもてなしの心で山岳ユニバーサルツーリズムを推進していきます。

■事例報告についての意見交換

事例発表を終えたあと、来場者とともに意見交換が行われた。

ある男性からは「誰でも山に登れることは大切ですが、山を聖地と崇め、不可侵のものと捉える日本古来の文化について学ぶことも同時に重要なのではないか」という提言がなされました。

また、今回の事例発表では、障がい者や高齢者に対する話が中心となったが、「外国人向けの取り組みを教えてください」との質問に対して、「今では旅行客の70%以上が海外からの外国人であるため、多様な国の方を迎えるための交通やガイドなどにおいて非常に進んだハイテクツールが整備されています」(スイス ハウスヴィルト氏)「イギリスの美しいところを日本の方はもちろん世界中の人たちに知ってもらうため、インバウンドの取り組みを強化しています」(イギリス マルハーン氏)などの回答がありました。

■山岳ユニバーサルツーリズムに向けての提言

中島恵理 第1回「山の日」記念全国大会実行委員会 副会長(長野県副知事)

「山の日」を契機に、これまで山から遠かった人たちに山の魅力に触れていただき、元気になっていただけるようなユニバーサルツーリズムの取り組みをさらに広げていく必要があります。そのためには、バリアフリーなどの施策に加えて、受け入れる側の「おもてなし」サポートや、山を楽しんでいただける機具や技術の導入など、お越しいただく方のニーズに沿った対応ができるような環境整備が不可欠です。

今後、行政のみならず民間団体の方々とも協力し、さらに国際的なネットワークを構築しながら、山岳ユニバーサルツーリズムの本格的な展開をめざしていきます。

司会

工藤夕貴
女優



萩原浩司
山と溪谷社主幹
山岳図書出版部部长



来賓紹介

【在日オーストラリア大使館】イモジン・エバンス、【オーストリア大使館】ヘルベルト・ピットラー、
【中華人民共和国駐日本国大使館】範建民、【イタリア大使館】ジョバンニ・スコルパ、
【在日本ネパール国大使館】クリシュナ・チャンドラ・アリアル、【駐日英国大使館】グレッグ・マルハーン、
【米国大使館】アロン・ゴールド、【スイス・グリーンデルワルト観光局】ペーター・エッガー、
【スイス・グリーンデルワルト観光局】ブルーノ・ハウスヴィルト



【会場「あがたの森文化会館」】

あがたの森文化会館は、ヒマラヤ杉に囲まれた「あがたの森公園」内にある重要文化財「旧制松本高等学校」校舎を保存しながら、市民の教育文化活動に活用している施設です。

信州大学の文理学部・人文学部校舎として昭和48年まで使用されたことにより、全国的に旧高等学校の遺構が少なくなっている中で、当時の状況が最も良好に保持されている唯一のものといわれています。

大正時代の代表的木造洋風建築で、学校建築史上貴重な構造物として、平成19年6月18日、重要文化財に指定されました。



来場者の総数:約130人

・各国大使館、海外姉妹都市、国機関山岳ユニバーサルツーリズムに取り組む団体の関係者
・公募で集まった県内の学生や市民 ・一般傍聴者(先着順) など

取材に訪れたマスコミ:新聞10社、テレビ局2局、出版3社



萩原 浩司

「山の日」制定記念国際フォーラム司会
山と溪谷社 山岳図書出版部部长 兼『ROCK&SNOW』編集長
公益社団法人日本山岳会「山の日」事業委員会 委員長

「山に親しむ」ことから始めよう

私と「山の日」とのかかわりは7年前、日本山岳会の「山の日」制定プロジェクトが発足したときに始まる。制定運動に長く携わってきたひとりとして、「山の日」が誕生した今、強く思うのは「山の日」本来の意義を広く後世に伝えたいということだ。

「山の日」の意義とはもちろん、「山の恩恵に感謝」である。しかし感謝するだけで終わるわけにはいかない。その先には恵みの源である山と自然を守り、次世代に残すという大きな命題がある。そのためにも国民ひとりひとりが山に親しみ、山の恩恵を深く理解することが重要なのだと思う。山が与えてくれる豊かな恵みを知り、心に刻むことが感謝への一歩となって、未来につなげようとする意志を醸成する。

今回の全国大会では国際フォーラムの司会を担当させていただいた。世界各国のユニバーサルツーリズムの実例報告を聞きながら思ったことは、障がいを持つ人々や子どもたち、高齢者、そして海外からの観光客等に対しても等しく、「山に親しむ機会」を提供することの大切さである。「山の日」の意義に記された「山に親しむ機会を得て」は、すべての人々に向けられた言葉だ。「山の日」をきっかけに山への思いを深め、自分には何ができるのか、を考えてくれる人が増えることを願っている。



木育キャラバン

山の恵みである木材を使用した「木のおもちゃ」や「あそび」を通じて木育を推進し、木製品の良さを普及啓発することを目的に、「木育キャラバン」を開催しました。

■日時及び場所

日時：平成28年8月10日(水)午前10時から午後5時まで

11日(木)午後10時から午後4時まで

場所：MIDORI松本(松本駅隣接施設)2階フロア

■「木育」とは？

材料としての木の良さや、人と森との関わりを学び、木材に対する親しみや木の文化への理解を深める活動の事です。

積み木やままごとセットから大人も楽しめるパズルまで約100点を超える木のおもちゃによる遊び体験を実施しました。

普段あまり山に関心の無い方々への「山の日」制定趣旨等をPRするとともに、買い物に来た親子が木と触れる機会となりました。また、松本城公園で実施している信州四方山祭りin松本城への誘客活動にもなりました。

参加者からは、「プラスチックとは違う木のぬくもりを感じることができて良かった」「手作りの木のおもちゃに触れることで、身近な山の樹木に関心を向けるきっかけとなった」などの感想が聞かれました。



【主催者】 認定特定非営利活動法人日本グッド・トイ委員会

【協力】 第1回「山の日」記念全国大会実行委員会、MIDORI松本